

第66回研究大会のまとめと反省 (研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について
会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について
日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題
△…提案

<国語部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 知識構成型ジグソー法を取り入れた学習により、生徒が主体的に課題に取り組む姿が見受けられた。生徒は、話し合いの際に叙述に基づき、根拠を明確にしたうえで班員に説明をするなど、自分の考えに説得力をもたせようとする姿勢が伝わってきた。国語科の授業だけでなく、学級活動等様々な活動の中で生かせるのではないかと感じた。
- 本文に書いてあることを根拠にして意見を述べるように教師が支援をしていたので、グループ活動が中心の授業であったが、グループ内で課題から大きくずれることなく話し合いを進めることができていた。
- 何を目的に活動しているのか生徒もよく理解して、取り組んでいた。自分の意見を言った後に、質問したり、答えたりする中で考えを深めていた。
- 知識構成型ジグソー学習を用いたことで、話すことが苦手な生徒も話し合いに参加し、協力して問題解決する姿勢が見られた。普段は聞き手になってしまう生徒も発信者になることができるのは、生徒にとって大きな自信になった。
- アドバイザー事業による講義内容が、国語教育の基盤となる内容であり、今後の参考になった。

【富山地区】

- 新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みつつも、教育事務所指導主事や、部会幹事と対面して話し、情報を交換・共有しつつ研究を進められたことは有効であった。
- 今年度は年度当初に具体的な研究計画を立案し、一貫した内容で年間の研究を進めることを目指している。年間3回行う富山市国語部会（6月・8月・1月）全てにおいて、東部教育事務所指導主事の助言をいただきながら研究を進めることで、研究の方向性が定まり部員が同じベクトルで研究を進めることができていることに意義がある。本大会も年間の研究の一過程として部員が臨み、自身の取組と引き比べながら研究授業や実践発表の在り方について協議できたことが有効であった。
- 場面の展開や登場人物の心情について、描写を基に捉えるために、「群読」という言語活動を採用した授業であった。生徒が一つ一つの言葉と向き合いながら、自らテーマを設定しグループで群読の台本を創り上げていく過程で「読む」力を育むことを目指した取組であった。一人一台端末を活用しながら、主体的に対話しつつ台本を作成する生徒の姿が際立っていた。授業者の意欲に支えられた実験的な取組として、多くの部員が肯定的に受けとめていた。

【高岡地区】

- 協議会でグループ別の時間があったので、気軽に質問したり、いろいろな先生の意見を聞いたりできたのでよかった。協議会1のグループ協議中に、授業者がグループをまわることで、質問したり、意図をきいたりしやすかった。また、授業者もいろいろなアドバイスをもらうことができた。
- 実際に生徒の活動を参観し、協議できたことはよかった。久々に全体での研修会ができてよかった。
- ICTの活用についての情報交換会がとてもよかった。ICTの活用の具体例をたくさん知ることができてよかった。
- 参観者が書いた付箋が授業者にすべてわたる仕組みがよかった。
- 俳句と地の文を比べながら作者の心情に迫るという手法はよかった。前時までに俳句と地の文との対応表を作れたことで芭蕉の思いや言葉選びまで考えている生徒がいた。

【砺波地区】

- 生徒の実態を捉え、教材を開発しての実践であった。
- 「風刺画」から違和感や気になる点を探し、それについて考えを深めるという活動があった。普段の授業の中で、継続的に自らの「問い」を見つけるという活動が生徒の学びの質を高めていくと考えられる。

- ICTの活用として、風刺画を拡大したり、共有したりできたところはよかった。また、「OneNote」を活用したことで、他の生徒と意見を共有でき、何をすればよいかも明確になった。反面、生徒同士の意見交換を行っても意見が深まらないという意見もあった。
- ICTを活用した交流は、自分の考えをもてない生徒にとって有効だった。
- 観点をもとに、生徒に問いを立てさせて分析することで、多様な捉え方がみられた。
- 普通教室ではなく、オープンスペースで授業することで、距離を保ちながら参観することができた。授業会場を協議会場としたことで使用する部屋も限定でき、片付けもスムーズであった。
- 授業力向上のための講義が再開され、米田先生の講義で多くの気付きと学びがあった。経験の浅い会員が積極的に質問するなどしていた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 班によって理解度や解釈に差があることに対して、どのような手立てが考えられるのかは今後の課題である。
- △ジグソー法による話し合いを深めるために、「つまり?」「どこからそう思ったの?」「例えば?」等、つなぎ言葉を提示することも効果的である。
- A～Cの小課題の設定について、どのようにするか(教師側が設定するのか、生徒の意見から設定するのか)吟味する必要がある。本時は、「観点を明確にして文章を比較し、構成や表現の効果を考えよう」という課題であったが、生徒には難しかった。生徒が思わず考えたいくなるような「自分事の問い」の在り方を追究していきたい。
- △情報を伝えること、ワークシートに書き写すことに時間がかかっていたので、ICTを活用して時間短縮をすることもできるのではないかと思う。
- 大課題の解決に向けて、エキスパート、ジグソー、クロストーク学習が有機的に絡む場面をどのように設定していくかを考える必要がある。

【富山地区】

- 全ての部会、研究大会及びそれらに関わる会合を対面で行っている。部員の人数が80名を超える実態を鑑みて、今後も感染拡大防止には充分注意を払う必要がある。特に会場校の負担が重いことについては十分な配慮が必要である。今後は会場を分散させること等も視野に入れて検討が必要である。
- 部員の日々の授業の取組と、各部会及び研究大会の実践が連結するようさらなる工夫が必要である。
- 生徒の学びに直結する、一人一台端末の活用の在り方について模索した研究授業であった。教室に6台のモニターを設置し、ジャムボード(テキストへの書き込みの内容を複数で共有できるアプリ)を用いて班員の意見の共有をねらった。意欲的な実践ではあったが、生徒の意識が「書き込むこと」に集まるあまり、活発な対話が発生しにくい状況が見られた。活動の軸足が「主体的な対話」に移るような、端末(アプリ)の活用の仕方を工夫する必要がある。
- 「主体的に取り組む態度」の評価場面・評価方法の提案や共有が為されたことで、指導と評価の一体化に関する部員の意識が高まりが見られた。今後は、「概ね満足できる状況(b)」の設定の在り方について、さらに研究を進める必要がある。

【高岡地区】

- 授業について、事前の指導案検討で提示する課題を吟味する必要があるのではないか。指導案の検討(授業の流し方の検討)が不十分であったのではないかと。発問が記載されていないこともあった。
- グループ協議のグループ編成について、可能であれば様々な年代が混ざるようになればよいと思う。協議会のスタイルを見直す時期ではないか。(グループ別協議会の是非)
- グループ別協議会でどのような意見が出たのか、全部発表できなくても共有する工夫がほしかった。
- 全部員で参観するのではなく、もう少し人数を絞って行ったほうがよいのではないかと。
- 授業会場が広い場所なので、せめて授業者だけでもマイクを使えばよく聞こえるのではないかと。
- 付箋に記入する協議会は、書くことに集中してしまい、授業を聞いたり授業後に話し合ったりすることの妨げになる。
- ICTの活用に関する情報交換会の内容を紙でも欲しかった。発表資料があれば、それを参考に、自分も取り組める。
- △協議会でもICTを使って意見を共有することができるのではないかと。

【砺波地区】

- 批評するために、風刺画が適切であったか。教科書では、対象やメッセージが明確である広告を用いている。批評をするには、作者が伝えたいことが伝わる風刺画になっているかを、考えることが必要である。

- タブレット端末の即時性、一覧性は大いに認められるが、話し合い活動で生徒が自身の変容を実感できるようにしたい。集団で学ぶことの価値を感じさせたい。
- 説得力のある批評文の書き出しを書く授業であったが、風刺画の捉え方ではなく、その書き出しに多様性が認められるべきで、書き出しの文について話し合いがあればよかった。
- 話し合いの中で、どうICT機器を生かしていくのか。ICTを使い、自分の意見を出し合うことはできていたが、その後の広がりがない。生徒が自分の考えを「交流」するためには、何を話し合うのか目的を明確にする必要がある。言葉で伝え合う活動と上手に組み合わせることが大切である。
- 生徒がタブレットを使って学習している場合、参観者は生徒の様子が分かりにくいという実態がある。参観者も生徒の書いた意見を見ることができるよう手段が必要になってくると考えられる。

Ⅲ 大会の諸準備、諸会合について

(1 会場都市、会場校の決定 2 地区研究会 3 資料の編集及び事前研修会 4 資料の製本や配付)

【新川地区】

4 〇指導案は、今後もデータでの配布でよい。

【高岡地区】

3 ●事前の打ち合わせで、指導案についての検討も行われたが、可能であれば指導案に事前に目を通すことができれば、より有意義な時間にできるように思う。

4 〇指導案を各学校で印刷する方法を今後も続けてほしい。

【砺波地区】

4 〇新型コロナウイルス感染症への対策を特にとらなくてもよい時期が来ても、現在のようにメール等でやりとりすればよい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

(1 運営分担や日程 2 研究授業 3 研究発表 4 研究協議 5 授業力向上のためのアドバイザー講義)

【新川地区】

1 ●13:30の授業開始はやや無理があったのではないかと。

4 〇協議会は小グループの協議であったので、意見を活発に交わすことができた。

【富山地区】

1 ●感染防止対策のために、体育館で研究授業・研究発表・協議の全てを行った。日常と異なる授業が、生徒や授業者、会場校の先生方に負担を背負わせたのではないかと危惧している。今後、80名を超える部員数を鑑みつつ、生徒、授業者、会場校の視点で研究大会の在り方を工夫する必要がある。

【高岡地区】

1 ●13:40開始だと、会場によっては慌ただしくなる。終了時間は、16:30が望ましい。

2 ●多くの先生が離れたところから授業を参観されており、生徒の発言も、ほぼ聞こえていなかったと思われる。コロナ禍の中、生徒に近付いてよいかどうか分からない様子もあり、事前に参観の仕方を案内する必要がある。

4 ●次年度以降も発表はなくてもよいと思う。しかし、協議会のもち方は工夫が必要である。今年は各市から事例を簡単に紹介してもらったが、事前の打合せを行わなかったため、当日、司会者に時間調整をしながら進行していただくことになった。

4 ●グループ協議を行ったが、時間があまりなかったため、グループでの意見を全体にまで広げることができなかった。多人数が集まった時にもっと有効に協議できる形を、模索する必要がある。

4 ●協議会1のグループ協議の係分担についていろいろな指摘があった。年齢、経験を考慮してほしいとの要望もあったが、そのためには3市の担当者の連絡を密に行う必要性が出て、負担が増える。

【砺波地区】

5 〇授業力向上アドバイザーの米田猛先生から「『言語感覚』の指導をどうするか」という内容で講義をいただき、さらに研究授業に対する指導助言もいただいたことで、大変有意義な研修になった。

Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

【高岡地区】

●研究発表がない分、授業担当の市で全ての運営、調整を行うため、部会責任者の負担が大きくなる。

- 氷見市は5校、部員数は、12である(管理職含む)。単独校が2校あり、そのほかにも学年をまたいで授業をしなければならない学校もある。また、教務主任や生徒指導主事を務める人もいる。構成年齢も考慮すると、市の研究授業の運営も厳しい状況となっている。各市の部員数に応じて、発表含め授業の機会を均等にしたいほうが、西部地区全体の授業力向上につながるのではないか。また、学力調査の作問を毎年1人選出する点を改善していただけないだろうか。市から1人を推薦する形になってから、校務運営上や年次等の配慮から結局は同じ人間が何度も行かざるを得ない状況が続いている。

＜社会部会＞

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- 一人一台のタブレットを使用することで、過去の話合いの内容や資料も確認できるため、有効に活用できていた。
- SDGsの視点をもって、既習事項や資料からアフリカ州が抱える課題を考察することで、生徒の思考力・判断力・表現力を育てることができた。また、生徒は考えをタブレット端末に整理してまとめ、班活動では、根拠を示して考えたことを発表していた。
- ICTを効果的に活用しており、魅力的な授業展開だった。地域が抱える諸問題について生徒が主体的に考えていた。SDGsについては、総合的な学習の時間の授業と関連性があったこともよかった。生徒がテーマを設定し、必要な資料を取捨選択し、分かりやすくプレゼンテーションを行う授業は、今後取り入れていきたい。
- テーマを通して教科横断的な授業になっていた。また、生徒は課題について自分事として考え、主体的な学びになっていた。
- 思考ツールを活用し、思考の過程が可視化されることで、話合いが活性化していた。
- Xチャートを活用して生徒が班で意見をまとめる手法は効果的であった。
- 複数の目標から意見を交流させることで、社会的な見方・考え方に結び付いている生徒がみられた。
- 指導助言では、まとめや振り返りでは、どのようなことが記述してあればよいかについて助言があり、今後の授業にいかしていきたい。

【富山地区】

- 既習事項を生かした授業展開で、様々な視点から意見が出ており、広がりのある授業だった。(地理的分野)
- 小中のつながりを考えた授業内容だった。また、ICTの活用やノートへのコメント等、授業者の日々の積み重ねが感じられる授業だった。(地理的分野)
- 他の生徒の発言によって自分の意見が変化した生徒がおり、グループでの話合いの場を設定した効果がみられた。生徒同士の対話の成立した授業だった。(公民的分野)

【高岡地区】

- 文化を題材とした授業はワークシートの穴埋めや説明中心になることが多いため、文化史におけるこれまでにない違う形の授業を提案した。今回は、国風文化を扱ったが、他の時代の文化でも扱うことが可能な汎用性のある授業を目指した。
- 「分類」と「比較」を活動に取り入れて生徒が考える場面や教師の示す視点に関連付けながら、文化が発展した理由を多面的に考察させる場面を設定していた。
- 単元を貫く問いを設定し、毎時間生徒に振り返りを記入させ、1時間おきに単元の課題に迫っているか確認させた。次の時間に向かって粘り強く学習しようとする生徒の姿がみられた。
- 「評価に用いる評価」「授業改善に用いる評価」について、指導案の単元計画に位置付け提示することができた。
- 指導と評価の計画を作成することは、教師自身が単元全体を俯瞰して学習計画を立てることに効果がある。
- 各時代の文化について複数の資料を分類、比較、関連付けて考えさせる学習活動は、生徒が各時代を大観する上で有効だった。
- 県中教研の研究主題解明の目的の下に指導案が練られ、単元構成では単元を貫く課題が設定されて授業実践が行われた。毎時間使用するワークシートでは、奈良から平安時代への文化の変化を多面的・多角的に分類できるようにして、生徒の記述等を「授業改善に用いる評価」とするねらいがあった。指導と評価の計画を作成し、指導と評価の一体化をねらった研究となった。
- 本時では、国風文化に関する資料を多面的な視点で分類する活動を取り入れた。生徒の見方・考え方が教師から提示された「政治」「生活」「国際文化」の3視点に限定したことで、既習事項の天平文化との比較に有効であり、新たな「貴族」「女性」という視点から多角的に捉えることもできていた。

【砺波地区】

- 授業では思考ツールの活用やタブレット上で各自がまとめた考えを電子黒板上で共有する活動等、様々な工夫がなされ参考となる実践だった。
- 7月に行った事前アンケートと学習後の考えを比較し、その変容の理由を生徒が明確に表現している様子から、学習の深まりがみられた。
- 授業では、資料のねらいをペアや班で考え、それを基に共通している内容を分類したことで社会的な見方・考え方を働かせるようにしていたところや、既習事項を活用してペアで考える場面で、生徒が主体的に学んでいた。

- 生徒が調べた内容を付箋にまとめることは、生徒の価値判断やその変化をホワイトボード上で移動させやすく、生徒の考えの変容を反映しやすい。
- 生徒は資料分析を適切に行い、「産業・人口・生活」の3つの視点に立って考察していた。他の視点からの考えを取り入れた結果、課題に対する評価が変容した生徒もみられた。
- 部会協議②では、増加する若手教員がベテラン教員と話し合う機会が少ないことから、若手教員の悩み等を聞き、ベテラン教員が助言する形式で情報交換を行った。若手教員からは、定期考査の作問のポイントや資料の収集方法等について活発な質問が出された。
- 部会協議②では、若手教員が作問に悩んでいるという実態を踏まえ、会員が班別で実際に作問し、互いに紹介し合う活動を取り入れた。班は若手からベテランまでバランスよく構成され、活発に話し合われた。若手教員には勉強になり、ベテランにも刺激のある協議になった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 班の意見交換と全体での共有の仕方については、同じ目標ごとに班を設定するのか、違う目標で交流するのか検討する必要がある。同じ目標で班をつくり意見交換するなら、内容をもっと深めさせたい。
- △研究協議では本授業だけでなく、章や節のまとまりを意識した議論が必要だと感じる。社会科では単元を貫く問いの設定が強く言われており、本授業の位置付けや問いの設定、評価の仕方についての意見交換があってもよい。
- △より深い学びにつなげるためには、自分と同じ意見だが根拠の異なる生徒の発表を聞いたり、もう1時間プレゼンテーション資料を作成する時間をとった上で発表したりしてもよかった。
- △アフリカ州以外の州や日本との関連から学習内容を深める活動を設定する授業展開も考えられる。
- △ICT端末をより効果的に活用するための方法について、実践を基にした検討を重ねていく必要がある。

【富山地区】

- 教師がコーディネートして、生徒同士の意見を交流させる必要があった。（地理的分野）
- 課題をさらに工夫することで、より効果的な話し合いが成立する。（公民的分野）
- 目標と評価の一体化が図られていなければならない（地理的・公民的分野）

【高岡地区】

- カードの分類については、分類は手段であり、その方法には工夫が求められる。
- 天平文化と比較し、共通点や相違点を挙げることはできていたが、最後のまとめができなかったため、生徒にはもやもやした気持ちが残ったまま授業が終わったと思われる。
- 意欲的に話す生徒が多かったが、先生と生徒の一对一の場面が多かった。先生がファシリテートして生徒同士の協働的な学びを促したかった。
- 「指導と評価の一体化」のため、学習評価を行う上で、指導と評価の計画を立てる際に、授業のねらいと評価の整合性を図ることが必要である。
- 歴史的分野における「社会的な見方・考え方」を育むために、グループでの話し合い活動や学級全体での意見交流が単なる「会話」ではなく「対話」になっているか十分に検討する必要がある。
- 自分の考えを論理的に説明する力や自分の考えを再構成しながら議論する力を育むためには、授業の終末における「まとめ」「振り返り」の時間を十分に確保する必要がある。

【砺波地区】

- 教材開発や学習活動の工夫はよく考えられていたが、生徒一人一人の変容をどのように評価していくのかについては、授業や協議会であまり明らかにならなかった。協議会のもち方、協議内容の焦点化等について他地区の状況を参考にしたい。
- 学習課題として扱う社会的事象の対象範囲を明確にすることや、一つの社会的事象のメリット以外にデメリットも掘り下げるような展開も必要。また、ある社会的事象について、その是非について生徒が評価を行う場合、何段階の設定をすべきか検討が必要。（本時の場合は4段階）
- 指導助言者も、協議内容が焦点化していた方がより具体的な助言ができると思われる。事前に助言いただきたい内容について言えるくらいにしておきたい。
- △異なる学習形態や学習過程で学ぶ生徒がいる中、どのように「学びのパラダイムシフト」をしていくのか、例えば教師が介する場面を減らし、生徒個人の自律的な学びを増やして、その学びを共有するなど、学びの方法を変えていく必要がある。タブレット端末やクラウドの活用がポイントとなる可能性があるが、方法を模索していきたい。

III 大会の諸準備、諸会合について

【新川地区】

- 資料製本や配付については、今後も、メールでの配信、各自で印刷、製本の流れでよい。
- △8月の地区研究会では、教科の会合はもたなかったが、運営に支障はなかった。8月は教員の出張も多いことから、全体会のみでも運営は可能ではないか。

【富山地区】

- 学力向上アドバイザーが指導案検討の段階から関わる場合は、事前に日程を調整する必要がある。

【高岡地区】

- 会場校決定は、前年度に研究大会担当の市で授業者を決定し、授業者の勤務校が会場校となった。しかし、授業者が4月に異動となったため、急遽会場校を変更することになり、新たな会場校に迷惑をかけることになった。

- 指導案配付はPDFファイルを各校に送付し、各校で印刷する方法は運営委員の負担が軽減されよかった。一方、印刷製本は各校で行うので、事務局から支給される資料印刷代等の諸費用の使途が不明確になっている。

【砺波地区】

- 砺波地区は3市が集まって研修しているが、8月の研修会後は研究大会担当の市に任せきりになり負担が大きい。

IV 研究大会当日の運営や内容について

【新川地区】

- ほとんどの教科が同じ時刻開始だったため、学校に残留する教員が少なく、下校や給食指導等の生徒への対応が大変そうであった。

【高岡地区】

- 部会協議①は60名以上の会員が参加しての事後検討会となったため、発言できない会員もいた。協議会のもち方は改善の必要がある。
- 各会員が地区の研究大会であるという意識をもって、事前に指導案を読み込み、授業を参観する姿勢を定着させたい。特に、部会協議①は時間が限られ、会員全員から意見を聞くことはできないので、授業前に授業観察の視点を提示し、分析したことを提出してもらい、それを基に授業者等で検証するなどの研究活動も必要である。

【砺波地区】

- 駐車場係等の運営について、運営委員や会員の多い郡市は対応できるが、数名しかいない郡市は対応が難しい。

V 各研究部会独自の意見や要望

【富山地区】

- 指導案の内容が徐々に増加しており、内容の見直しや精選が必要ではないか。

【高岡地区】

- 授業力向上アドバイザーに指導案作成の段階から参画してもらったことから、授業者を中心にやり取りのある研究大会になった。一方、指導案がある程度仕上がった段階でアドバイザーに提出した結果、やり取りをする時期が遅くなり、アドバイザーと指導助言者の事前指導の日程調整に苦慮した。今回はアドバイザーに2回見てもらったが、6月の段階で一度見せて意見をもらえばよかった。

△3年ぶりに全会員が参集する大会となった。昨年度のようにモニターで研究授業を観るより、会場で直接参観できる方が、生徒のつぶやきや班の意見交換も聞き取れ、生徒の気付きや変容が分かった。協議会も活発な意見交換ができた。今後も授業会場に全会員が参集する形式で地区大会を開催することが望ましい。

【砺波地区】

- 小規模校が多いなどの地区の実情を踏まえると、研究発表は負担が大きく、実施できない状況が継続している。

<数学部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- ・郡市ごとの少人数グループでの話し合いも大変活発に行われていた。話しやすかった。
- ・ICTを効果的に使用し、学習の理解に繋がっていた。タブレットを用いた授業が参考になった。
- ・振り返りやまとめでもICTを使ったり、毎回の授業で気付いたこと、分かったことを文章で書いたりすることで教員の授業改善や生徒の評価につながると感じた。
- ・リレー方式を用いた証明の学習は、学び合いが自然と行われており、数学が苦手な生徒も問題に関わることができる面期的なものであった。また、1人で証明するよりも有効だと感じた。
- ・生徒の証明の写真をスクリーンだけでなく、生徒1人1人のタブレットにも表示しており学習の理解につながっていた。
- ・(授業者が進度の工夫をしたのかもしれないが)あまり参観したことの無い題材だったので勉強になった。
- ・リレー形式にすることで、1人1人に役割が与えられ、ほとんどの子が取り組むようになった。
- ・お助けカードが視覚的に分かりやすかった。図形を切り取っているため、ひっくり返したり、動かしたりしながら、相似条件に当てはまるものを見つけていた。

【富山地区】

- ・昨年度に引き続き、進度変更をして「データの活用」の授業であった。3学期の学習内容のため研究授業として提案されることが少なく、参加者にとって、とても有意義な研究会になった。
- ・授業提案としては、2つの研究授業ともよかった。特にChromebookやJamboard、Formsを利用した展開が、活用例として参考になった。

<2学年>

- ・2年の授業では、振り返りの方法としてFormsを利用し、全員の記入内容を確認しながら、発表させていた。全員の意見がもっとはっきり分かるようになると更によいと思われる。

- ・箱ひげ図や代表値等の根拠をもとに、生徒が自分の言葉で説明していた。また、生徒が他の生徒の意見を聞きながら、自分の考えを見直す機会がつけられていた。
- ・クロームブックを効果的に活用していた。データ処理をするだけでなく、Google formsで入力した本時の振り返りを、スプレッドシートにして、全体で共有することで、他の考えに触れることができた。

<3学年>

- ・身近な事象を取り上げ、数学的に表現・処理し、考察するという数学的活動が十分に行われていた。
- ・標本調査の結果を批判的に考察するために、全数調査としてChromebookを活用し、市内の生徒からのデータを収集したのがよかった。Chromebookの有効な活用方法を知ることができた。
- ・市内の中学生8,000人からのアンケートをGoogleFoamで全数調査をすることができた。その全数調査の結果を標本調査から予想するだけでなく、実際に確認することができ、深く考察することができた。何より、全数学部員、市内中学生の協力で調査ができ、データの収集や活用の可能性を広げることができたことがよかった。
- ・内容や時間のまとまりを見直した指導があったことで、生徒は、深く考えたり、自分の考えを表現したりできたので、深い学びにつながった。
- ・様々なデータを処理・活用することに、タブレット端末の利用が有効であった。

【高岡地区】

- ・考える時間の確保、支援が必要な生徒への手立てにICTを利用するなどの工夫が見られた。
- ・協議会前に良かった点と改善点等を付箋に貼っておくことで多くの先生方の意見を取り入れることができ、大変実りのある研修になった。
- ・良かった点と改善が必要な点を付箋に書いて貼ることによって、自分の中で授業を観察する視点をまとめることができ、協議会に自分なりの視点をもって参加することができた。
- ・表計算ソフトを用いて、生徒にグラフを作成させたことで、生徒の学習意欲が向上し、時間も短縮できた。ICT機器で、フリーソフトを用いてグラフをかいていた。
- ・振り返りをさせた（普段からさせている）ことで、生徒が自分自身で学んだことが自覚でき、次の学習へとつなげられていたことがよかった。
- ・体育館での授業のあと、すぐに協議会、全体会ができるように会場も工夫されていた。
- ・各市で実践させている一人一台端末の使用方法を垣間見ることができた。
- ・リレーのバトンパスという題材の設定が学校行事と関連づけられていて、生徒にとっては非常に身近に感じられる課題であったことが、主体的に取り組むことに繋がった。導入で、バトンパスの映像を流し、生徒の興味を引きこむことができた。
- ・一次関数の利用の気温と標高の関係から、一次関数として捉え、気温を予想する数学的活動を取り入れた授業であった。「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料にも掲載されている、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して課題を解決する学習場面であった。ICT機器を活用し、複雑な計算やグラフに点をプロットして視覚的にもわかりやすくしていた。

【砺波地区】

<研究授業について>

- ・タブレット端末の充電時間と電池残量という身近な事象を取り上げ、生徒の興味を引き付ける課題であった。
- ・自分で選択してみることができるとヒントカードやワークシート、グループ活動など課題解決の手立てが充実していた。
- ・自分の考えを共有する機会を多く取り入れ、自分の言葉で説明する力を高めることにつながった。
- ・適用問題に取り組み、学びの成果を実感することができた。また、教師の指導の振り返りの手立てにもなった。
- ・主体的に考えるための手立てが豊富であった。ヒントを提示するためにタブレット(オクリンク)を利用しており、必要な人は必要な分だけ参照できるようにしていた。
- ・教師の「なぜそう思った?」、「グラフのどこから判断した?」という発問が多く、生徒が根拠まで考えてほしいという教師の意図が伝わった。
- ・1次関数のグラフをかいて読み取って終わりではなく、そのグラフのよさに気付いているかを評価するために、振り返りまで行うことができた。
- ・学びの成果が実感できるような適用問題であった。できていない生徒だけではなく、できる生徒への手立てが考えられていた。また、プリントの裏に詳細な解説を付けていたことで自主的に学習できるようになっていた。

<部会協議について>

- ・部会協議Ⅰでは、付箋紙を用いてグループ協議を行った。十分に話し合う時間を確保することで、会員同士が様々な視点から考察したり、考えを深めたりすることができた。
- ・部会協議Ⅰと部会協議Ⅱの間を15分間設けることで、機材の準備など余裕をもってすることができた。
- ・部会協議Ⅰでは、自評・質疑応答を短時間(5分)で切り上げた分、グループ協議の時間を充分取って、研究部員同士のやりとりの機会を確保できた。
- ・指導助言は、部会協議Ⅱの冒頭でいただいた。その後、1週間後の北陸四県数学教育研究大会の最終リハーサルを行った。各グループは、年度ごとの研究グループのメンバーで構成した。本年度のグループの発表に対し、部員からアドバイスを提供する場も設けた。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔新川地区〕

- ・ICTを活用しながら、学習の記録の残し方を考えないといけない。
- ・今回は板書を使わずICTのみを使った授業だったので、板書とICTのどちらもうまく活用した授業を行ってけるとよい。
- ・発表の仕方を工夫、指導する必要がある。
- ・協議会は、郡市ごとではないグループにしたほうが様々な意見が聞ける。
- ・授業者の意見や考えを聞く時間をさらに増やしてほしい。
- ・できるだけ普段と同じ環境下での授業を見たい。
- ・振り返りシートを見ると、1人1人に教師が丁寧にコメントされていた。とても素晴らしいことだが、学年全員分を丁寧にコメントしていたら、時間がかかりすぎるのではないか。振り返りシートの運用方法を考えていきたい。
- ・グループを男女別にしていて、性別関係なく分けた方がよいと考える。

〔富山地区〕

- ・グループでの話し合い活動は、5～6人では人数が多かったので、3～4人のグループにすれば、対話がふえてさらに活発な話し合いになったと考えられる。
- ・授業形態として個人、ペア、グループがあったが、より効果的な形態としてどうすることがよいのか展開を考えて工夫する必要がある。
- ・大きい大会だったこともあるのか、部会協議の時間に、発言が少なかったのが残念だった。運営に工夫が必要だった。

〔高岡地区〕

- ・2年生の協議会では、質問がない場合に、司会は出席を見ながらあててもいいと思った。（事前に何人かに質問をお願いしておくなど）
- ・先生方が付箋をたくさん貼っておられたので、自分になかった視点を得るために、貼られた付箋をゆっくり見る時間があれば良かった。また、貼られた付箋を分類して、それぞれまとめた状態にすれば分かりやすかった。
- ・グラフや図から、生徒は直感的にとらえたことを、自分の言葉で説明していたが、全国学力・学習状況調査の課題をふまえて、数学の用語を適切に使用して説明させる（書かせる）機会も必要と思われた。
- ・グループで、変化の割合を求める作業をしたこと（活動3）は、時間がもったいなかった。求めさせたければ、1か所だけにして、残りは教師側で提示するべきだと感じた。
- ・教師の物わかりがよすぎると、生徒が数学的な表現を用いなくなってしまう。生徒が発言したことを、教師側で変換せず、他の生徒を指名して発言させるなど、生徒間で発言をつなげて、より内容を洗練させるべきであると感じた。
- ・付箋を使っての部会協議だったので、もっと付箋を有効利用するべきだと感じた。また、付箋の内容を先生方で確認し合う時間があってもよいと思う。
- ・難度の高い課題を解決しようとする授業が多いように思われる。その1時間で大きな問題を1つ、仲間と協力して解くという展開であるが、研究授業のための授業であって、実用的かつ効果的ではないように思われる。例えば、解きやすい問題を全体で考え、終末に適用問題に取り組む展開であれば、1時間の変容をみとることができ、協議も深まるのではないか。
- ・富士山付近の気温と標高の関係から気温は何度になるだろうという学習課題として提示されていたが、それは問題として提示すべきではないか。授業の内容からすると学習課題としては「一次関数とみなして、表・式・グラフを用いて気温を求めよう」といった言葉になるのではないか。
- ・課題提示が、教師からいきなり与えられていたことがもったいなかったと感じた。生徒が必要感を感じ、考えたいような導入の工夫が必要だと感じた。生徒との対話の中で問題を見出したり、解決するための見通しを発見・共有したりすることで問題解決型の授業になるのではないか。
- ・式を入力するとグラフが出力させるアプリを使ったことは考える時間を確保するために効果的であったが、2乗に比例する関数や一次関数の式の理解が不十分な生徒にとっては式自体が分からないため、既習事項の確認やグラフの交点を扱う前段階での振り返りや学び直しが必要であると感じた。
- ・グループ活動の意図を明確にする必要がある。活動の見通しをもって何を考えさせたいかを明確にすることが大切である。
- ・今回の研究大会では、授業者の意見を参考に、参観の先生に付箋を配布し、研究主題に関わることでなく、良かったと思われる点や改善点を自由に記入してもらった。協議会では、付箋を拡大した指導案に張りつけ付箋に書いてあることを取り上げ研究協議を行った。協議会後はすべての付箋を授業者に渡し、多様な意見を得ることができた。研究主題に迫る協議会になったかは疑問が残った。

〔砺波地区〕

- ・視点をグラフから一度離れることで、グラフのよさを再認識することができるのではないか。
- ・思考力、判断力をみる問題だったか、機械的に解く問題になっていなかったか、考える必要がある。
- ・グラフを使わずに解決してみるという授業展開にすると、グラフで解くことのよさをより実感できるのではないか。
- ・研究授業や部会協議ⅠとⅡの間隔は15分と、充分に取った。余裕があった分、「間延びした」と感じた部員がいたのではないか。

- ・協議会では、今回のように、付箋の記入やグループでの協議をすること等、より研修が深まる手立てをしていくのがよいと思われる。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について

(① 会場郡市、会場校の決定 ②地区研究会 ③資料の編集及び事前研修会 ④資料の製本や配布)

〔新川地区〕

- 4 資料をメールで配付し、郡市ごとに印刷したが次年度もこの方法でよい。

〔富山地区〕

- 4 事前資料のメール配信することで、製本や配付の手間が省かれ、働き方改革につながっている。今後、市内数学科教員のクラスルームを設定したり、ドライブにデータを置いて共有をしたりと、さらに便利な実際の利用について、検討したい。

〔高岡地区〕

- 4 資料は、しっかりと製本した物を送ってほしい。

〔砺波地区〕

- 4 次年度以降も、PDF形式の送信をお願いしたい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について

〔新川地区〕

- 1 開始時刻が早い。勤務校を急いで出ることになるので、開始時刻を遅らせることはできないか。
- 1 今回はコロナ前のように多くの教員が参観し、研究協議することができて有意義な大会になった。授業会場も人数に合わせて、教室以外の広いスペースで行われていたので参観しやすかった。
- 1 大会当日が中間考査前日だったので、実施日を検討したらよいと思う。残った生徒に対して申し訳ない。
- 1 協議会を1つにして開始時間を遅らせてほしい。
- 2 生徒を多くの教師が取り囲んで参観する方法は今の時代に合っていないと感じた。参観人数を限定20名程度にするべきではないか。
- 2 今年度は、久しぶりに部会の方のほぼ全員が出席された。そのため、生徒より多い人数で参観していた。それに慣れない生徒は、不安になったり、大人の目が怖かったりと感じるのではないかと予想する。今後の研究授業を参観する際は、各校からの参加者を限定したり、授業するクラスを増やしたり、リモートで配信したりして、なるべく参観する人数を減らせないかと考える。
- 4 教員同士の研究協議は郡市ごとに行うことで話しやすく協議しやすかった。協議の方法は、生徒の授業と同様にICTを活用した協議ができるように工夫できればよいと思う。ICTを使うことで発表や意見の整理がしやすい。
- 4 グループ協議からの全体協議だったが、最初から全体協議にした方が、しっかり時間を確保できるので、より協議内容を深められると思った。また、普段接することのない方の考えに触れることを楽しみにしているのだが、同一郡市だったのが残念だった。
- 4 部会協議では、グループ毎に分かれて意見を出し合い、まとめたものを代表者が発表する形式になった。参加者全員が考えたり、発言できたりする機会をつくれたため、今後はグループに分けて議論したほうがよいと考える。
- 4 部会協議で各郡市の発表時間が長くなり、時間が押した。発表時間を明確に決めたり、合図を出したりして、時間調整すればよかった。
- 5 アドバイザーの方が長い間同じ先生なので、違う視点の講演も聞けるようにしてほしい。
- 5 当日、急にアドバイザーが来れなくなるという事態で、部会協議②が急遽、郡市ごとの話し合いに変更にな戸惑った。
- 5 今年度は、急な中止で残念であった。

〔富山地区〕

- 1 北四研究会と重なっていたため、授業参観者が多かった。廊下での参観者も多く、人数制限や早からの調整が必要だった。会場校にも、授業会場の配慮と、会場設営に協力いただきありがたかった。
- 1 北四大会を兼ねていたため、午後の部の研究授業開始に向けて開場時刻を周知する必要があった。早くに到着する参加者がいて、会場校に迷惑をかけた。
- 1 授業研究会の司会と運営委員を兼ねていたため、短い時間で打合せや会場準備があり、十分にできなかったように思った。
- 1 北四大会と兼ねていたため、部会責任者が北四の準備委員会の会合に参加できるよう、依頼する必要があった。また、両大会の役割について理解し、調整できればよかった。

〔高岡地区〕

- 1 例年この時期なので、内容が関数ばかりで、図形の内容の研究授業の提案もあるといい。
- 1 授業開始時刻が早いように感じた。今回のようにアドバイザーの先生の講演がない年は、もう少し遅くてもよかったのではないか。
- 1 昨年は人数を限定して参観だったため、今回は全員参加させて頂き有難かった。会場が広く生徒がワークシートを記入する活動等を細かく見ることができてよかった。
- 3 北四の発表については高岡市の研究部会で発表しているので、紙面での発表でもよいのではないか。北四発表の質疑応答の時間が長いように感じた。もっと短くてよい。

- 4 研究協議では、個やグループでの学びにおいて、どのように学びが成立していたか、どのような場面で成立しなかったかを生徒の活動（生徒の発言やワークシートの記述）を基に具体的に議論したらよい。
- 4 部会協議②は、発表を来週に控えた内容に対して意見・質問は言いづらいのではないかと思う。
- 4 授業後の協議会では、司会者が指導案に沿って時系列に質問を整理しながらの進行があり、スムーズでとてもよかった。ただオリエンテーションがなかったため、質問用の付箋（黄色等）があるとよかった。
- 4 コロナ対策を踏まえて、授業会場も協議会場も広い場所と考えると授業会場でそのまま協議を行った。会員のみなさまに協力いただいて一斉消毒をしたが、感染症対策が徹底できたかは疑問が残る。
- 5 コロナが落ち着いたら、また県外講師の方からの講演も刺激があつていいと思う。

〔砺波地区〕

- 1 会場責任者に業務が集中しないよう、運営委員で分担・フォローすることが大切である。
- 3 提出書類について、資料によって記載されている必要部数などに矛盾があるため正しい情報を発信してほしい。

V 各研究部会独自の意見や要望

〔新川地区〕

- ・時期で扱う教材が固定しているので、授業者（担当郡市）は苦勞する。しかし、実施時期を変更しない限り、なかなか解決も困難である。

〔富山地区〕

特になし

〔高岡地区〕

- ・授業者は、緊張もあり、細かなところまで目を行き届かせることは難しい。参観者は、具体的な場面での生徒の学びの状況を授業者に伝えることで、授業者自身の気付きに繋がるような協議ができたらよい。さらに、参観者も生徒の活動をより深く観察することで、より主体的に参加できるようになると思う。研究授業を通して、参観者が何を学んだかが重要で、多くの人がお客さんになっている。
- ・若い先生方のオリジナルのアイデアが組み込まれた面白い授業を期待しています。

〔砺波地区〕

- ・部員の発言を全体で求める場では、互いに「発言内容を評価されるのではないか」と思い、全く反応がない状態が、数分続いた時間があった。グループ毎に発表を回す工夫も行ったが、議論が活発になる工夫を探っていきたい。

<理科部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

〔新川地区〕

- 実際の授業教室とリモート画面を視聴する教室に分けて行ったため、感染症対策がしっかりとなされていた。撮影者が移動しながら撮っていたためリモート用の教室でも、授業の雰囲気伝わっていた。
- 既習事項をもとに仮説を立てたことで生徒が意欲的に実験に参加する姿が見られたとともに、実験結果から仮説を修正することができ、科学的に探究する活動となっていた。これにより研修主題にもある、「科学的に探究しようとする態度を養うための指導の工夫」に迫るような授業内容であったと考える。
- ホワイトボードに班の考え方を書き入れ、全体に見せ合い、学級全体で考えが瞬時に共有できたので、ホワイトボードの活用は、多様な考えを生徒から引き出す手立てとして有効であった。
- 考察を文章化するときに、話型を示すことにより記述力を高めることができるのではないかと指導講話をいただいた。教師自身が仮説を検証し、考察するという探究の流れを意識した授業を構築するためのよいきっかけとなった。
- 冒頭に、学習課題について説明したり、授業の流れが書かれたシートを配布したりすることで、生徒全員が学習課題を把握し、目標をもって取り組むことができた。
- 仮説や考察について個人、班、全体で考えさせる時間を確保していた。
- 授業力向上アドバイザーの講演内容が、R4年実施の全国学力・学習状況調査の分析だったため、タイムリーな話題で分かりやすかった。

〔富山地区〕

- 3年ぶりに通常の形（2つの研究授業公開、部会協議①、②）で行った。欠席者が少なく、多くの部員0が参加した。理科部員の「授業を直接参観することで学びたい、他校の部員と意見を交換し新たな情報を得たい」という意識のあらわれだと考えられた。
- 2年生の研究授業では、実物（ブタの小腸）や糖試験紙を用いて生徒の興味・関心を高め、実験を通して具体的に考えられるよう工夫がなされていた。課題に対して予想、確認、個人で考え、グループで話し合うという過程をしっかりと踏まえた授業構成がされていた。
- 1年生の研究授業では、状態変化について粒子の運動をモデルに結びつけて考えさせることが難しかった。生徒の実態を踏まえて「自分の考えをもつこと」や「意見交換を通してモデルを練り上げること」に重点を置いて展開する授業とした。

【高岡地区】

- 指導主事より、市・地区において一貫して助言がいただけた。各市の取組が例年より深く理解できた。西部地区大会に向けての準備を行うことで、より密度の濃い事前、事後の検討会ができた。
- OPPシートを用いたことで、単元全体を1つとして考えることができ、生徒が自身の変容を捉えられた。
- 1時間だけのワークシートではなく、単元の流れに沿った形のワークシートは教師も生徒も思考の流れが分かりやすいので、取り入れたいと思った。
- 「だ液によるデンプンの変化」の実験でだ液を使わず胃腸薬を使った実験は興味深かった。また、温度や反応時間を様々に変えて実験を行った結果も今後の授業に活かせると思う。
- アドバイザーの講演では、全国学テの分析から授業改善の方向性やこれからの理科教育に求められることを示していただき、とてもよい学びの機会となった。

【砺波地区】

- 「なぜアクリル板を置いた机が持ち上がるのか」という学習課題を設定し、持ち上がる理由を大気圧と関連づけて説明するために、仮説を立て検証するための実験方法を自分たちで考え、実際に実験するという授業であった。生徒たち自身が考えた実験である上に、それら全てが異なる実験方法であったため、どの生徒も意欲的に考えながら主体的に取り組む姿が見られた。
- 最初にアクリル板を乗せた机を、アクリル板に付けた吸盤で引き上げる演示実験を見ることで「なぜ」「不思議だ」「調べてみたい」と動機付けがしっかりできていた。
- 生徒は自分たちの実験の様子を動画等で撮影し、実験結果を確認し、班で話し合うときや全体での発表の際その動画を効果的に利用していた。タブレットや電子黒板等のICT活用が効果的であった。
- 最後に演示で行った一斗缶を大気圧でつぶす実験は、迫力があり「大気圧はすごい」と生徒の探究心をくすぐるとともに、次時のさらなる意欲付けとなった。
- 1回目指導案検討、校内研修、2回目指導案検討、校内起案、完成と見通しをもって準備ができた。検討会は対面で行えたのでよかった。
- 一人1台タブレットを効果的に活用できた。（結果、考察の場面）ICTを活用して、各自の予想や考察を提示したり、実験結果を撮影したりすることで、互いの考えを伝えあうことができた。
- 部会協議では、4～5人の小グループで話し合いを行った。若手とベテランの教員が同じグループになることで、若手の先生は多くのことを学ぶ有意義な時間となった。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- ばねばかりを手にとっての測定だったため、測定値の誤差が大きくなりそうであった。ばねばかりをスタンドに固定するなどして、正確な測定値に近づくような工夫が必要であった。
- 力の大きさを表したり合力を考えさせたりするときには、矢印の長さについて事前に確認しておく必要があった。状況によるが、ワークシート等に目盛りを付けておくことが考えられる。
- 生徒実験のデータについては、学級全体で確認後、教師が黒板の表に記入していたが、本当にすべてのグループの結果が同じであったのだろうか。
- 力の向きや大きさを表す矢印について、仮説・考察時に矢印の長さが適切でない班があったので、矢印の書き方について再確認する必要があった。
- ホワイトボードやプロジェクターを使って各班の仮説・考察を共有していたが、後ろの座席から見えにくかった。そのため、タブレット端末の共有機能を活用することで、全員がより分かりやすく共有できたのではないかと考えられる。

【富山地区】

△生徒に、当初の考えから実験観察の結果、友達の見方や話し合いの結果等、様々な材料をもとに、どのように考えを修正させていくか、自己調整の力を高める手立てが必要となる。

【高岡地区】

- 「条件制御」の仕方、「対照実験」の意味を普段の授業から意識させること。グループの形をしていることで、自然と考えることができる生徒に仮説や実験方法が寄っていき、「個」の考えを生かし切れていなかったこと。
- コロナ禍という現状を考慮すると、今回のように研究授業を行うことができない場合の研修方法を協議しておく必要があった。
- できれば、他の教員が授業を飛び込みで行いたかった。

【砺波地区】

- △内容が盛りだくさんの授業だったため、時間がなかったかもしれないが、結果を共有してから考察する方が生徒の見方・考え方が深まったのではないかと。
- 様々な実験方法で調べていたが、この実験で何が分かるかというところが大事である。課題に対しての仮説を検証するという意識をもたせるために、「結果が〇〇ならこう言える。ならなければ、こう考えられる。」と先に考えさせておくとうよかった。
- 仮説と検証方法を明確にし、見通しをもって課題を探究していくこと。
- 理科の見方・考え方を教師も生徒も意識して課題を探究していくこと。
- 根拠のある仮説を基に、ねらいを明確にした実験計画の立案。
- コロナウイルス対応による授業会場の選定。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

【新川地区】

△メールでの配付資料について、各学校へ送付していただくと、市内学校間での混乱がないのではないかと。

- △郡市によっては、中学校で順番を決めているようだが、それよりもまだやったことがない教員に授業をしてもらった方が研修になるのではないか。
- 感染症対策を続けていく必要があるのであれば、今回のように授業を中継して別室で見学する対策を会場校にはしていただく必要がある。
- メールでの資料配付がよい。データの方が扱いやすい。
- 事務局からの資料のうち、「中学校教育課程地区研究会協議資料」が届かず混乱した。いつ・誰に・どのようにして資料を配信するのかが、資料では分かりにくい。今年度一覧表が出たが、資料が複数になることにより混乱した。次年度はいつ誰に、どのように資料を配信するか手順をまとめた方がスムーズになると感じた。
- △郡の理科部会への指導案の送付が遅れてしまった。新川地区の責任者→郡市部長→各会員の流れが分かっていたいなかった。県の部会の資料に明記しておくとういのではないか。

【高岡地区】

- △指導案や授業力向上のためのアドバイザー講義の資料は各自で印刷して持参すれば、会場郡市や会場校の負担は少なくなるので今後も続けたらよいと思う。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

【新川地区】

- △コロナ禍において、今までの協議会の流れとは変更せざるを得ない部分が出てきている。一度協議会の流れや当日の流れを確認して明文化しておく必要があると思われる。
- 全国学テがどのような意図で作問されているのか、また、結果から分析できる授業の改善点等を詳しく、丁寧に説明していただき、非常に実りのある研修になった。
- 事前に校内で全国学テについて教科部会で検討していた問題について解説があり、検討の方向性が正しかったことと、これからの授業改善の取り組みについての見通しがもてる内容だった。

【富山地区】

- △多くの参観があった。幸い感染状況が落ち着いていたため、窓、扉を開放して授業を行っていたが、感染状況が悪化した場合の参観方法（オンラインでの授業配信等）を検討する必要がある。
- 8月10日に行われた北信越理科教育研究会で発表された2名の先生方に、発表内容を部員に広めてもらう形で発表してもらったが、個人への負担が大きくなった。
- 部会協議では、参加者が多かったため、授業に関する協議で時間がいっぱいになり、もう少し時間があってもよいと感じられた。協議の進め方について事前にもう少し検討をすべきだった。

【高岡地区】

- △リモートで行うより、全員が会場に行って参加するのがいいと思う。
- グループの形をしていることで、自然と考えることができる生徒に仮説や実験方法が寄っていき、「個」の考えを生かし切れていなかった。

【砺波地区】

- 発表者の負担が多かったが、指導案と発表資料とあることで、授業を見ていない部員にとっては、短時間でよい研修の場になった。
- 部会協議では、授業に関する話で時間いっぱいであった。研究主題説明や各校の取組や意見交換の時間が設けられるとよかった。

V 各研究部会独自の意見や要望

【新川地区】

- △アドバイザー講義があるときは、紙上発表はない方がよい。
- △紙上発表の取扱い等、郡市部長で引継ぎを行った方がよい。

【富山地区】

- △昨年度は参加人数を制限しての開催であったが、今年度は従来の方法で実施することができ、部員の研修の機会が確保できた。今後は部員が会場に参加できない場合の手立ても考えておく必要がある。

【砺波地区】

- △部会協議を充実させるための時間の確保が必要である。（昨年と同様）

<音楽部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【東部地区】

- ・2教室を使って密を避け、会場をタブレットでつないで授業を行ったこと。
- ・郷土の音楽を題材に、伝統楽器を用いて実践したこと。
- ・グループ毎にテーマを設定し、思いや意図をもって演奏できるようにしていたこと。
- ・ICT機器を用い、授業への参加を実感させていたこと。
- ・ICTで確認したい箇所を選択して何度も聴き返したり、動画を視聴して奏法を確認したりしていたこと。
- ・民謡や伝統芸能を扱う面白さと難しさが分かった。
- ・思いや意図をまとめるワークシートがよかった。
- ・Meetを使用しての指導が参考になった。
- ・ジャムボードで互いの意見を即時に共有できたのがよかった。

【西部地区】

- ・デジタルコンテンツの活用により、生徒は活動しやすそうだった。

- ・デジタルコンテンツを使用することで、全員が作品を作ることができた。
- ・デジタルコンテンツは記譜にこだわらず、容易に記録することができる。また、和音の構成音が分かりやすく示されていたりと、これまでの創作活動で困難だったことが解決することが分かった。
- ・創作領域におけるICT活用の有効性を感じた。
- ・イメージの元となる写真を机上に置いたことで思いや意図から離れずに創作することができていた。
- ・「まとまりのある旋律」とは音楽的にどういうことかをおさえたのがよかった。
- ・班で意見交換やアドバイスをしあったことで、迷いの解決につながったり自信をもって活動に臨めたりしていた。
- ・事後研修で高岡市から創作の授業例が提示されたことがよかった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- ・タブレットで感想を入力させると時間がかかるのと、読むのに時間がかかり、生徒同士の会話につながらない。
- ・グループ発表後にメッセージをもらったことを、どのように工夫に生かすかをしっかり話し合う時間を設ければよかった。
- ・工夫の仕方やポイントを明確に示してから学習に取りかかればよかった。
- ・生徒同士が対話する機会をもっともてたらよかった。
- ・タブレット入力より対話の方が早く伝わりやすいので、ICTの活用場面をもっと絞ってもよい。
- ・副旋律のパートがやや難しく、演奏できない生徒がいた。もっと簡単に演奏できるものにし、その上で表現活動を進めるとよかった。
- ・ジャムボードは個々の端末上で完結するので、研究授業なら参観者にも分かるようにする工夫が必要だ。
- ・録画した動画を視聴する時間を設け、客観的に自分たちの演奏を振り返ることができるようにすればよかった。

[西部地区]

- ・電子黒板を活用し、聴かせる際に楽譜を映し出せばよかった。
- ・学習の過程が見えるように、工夫前の作品も見れたらよかった。
- ・評価の仕方。Aはどのような作品かを決めるのが難しい。
- ・発表の場や目的を具体的に提示するとよかった。
- ・課題意識のたせ方。生徒の意見を取り入れながら進めるとよかった。
- ・楽譜の画像や音源等のデータの共有によって視覚支援にもつながる。
- ・一斉に大勢が音を流すとき、音量の調整が難しい。イヤホンを使用するなどの工夫が必要。
- ・ICTは便利だが、生徒の様子を現在進行形で把握するのは難しいと感じた。また、タブレットの不具合に対応できるように、予備の機材を用意しておく必要があると感じた。

III 大会前の準備、諸会合について

- ・指導案がなかなか手に入らず困った。
 - ・事前研修会での指導案検討が、時間の関係で不十分だった。その後データでのやり取りを行ったことで、内容の検討を図ることができた。
 - ・資料の配付はデータで行うとよい。指導案だけでなく、研究協議②の資料も事前配布すればよい。
 - ・「日程」原稿Bについての記載方法を統一してほしい。
- ※要項では 指導主事 ○○ ○○ (西部)
 各教科の資料では 西部教育事務所 指導主事 ○○ ○○
 指導主事 ○○ ○○ 先生 (西部教育事務所)
 指導主事 ○○ ○○ (西部) 等、まちまちのため

IV 研究大会当日の運営や内容について

- ・郡市部長の人数減と会場校までの移動距離の関係から、実際の運営委員は会場校の幹事が多く関わっているので、運営委員として資料に名前を入れられないか。
- ・アドバイザーとの連絡調整の手順を示してくださるとありがたい。
- ・協議会の時間があまりなかった。学校の立地や協議会の内容等を鑑み、慎重に時間を設定する必要がある。

V 各研究部会独自の意見や要望

- ・次年度の全国大会に向けての提案授業だったので、研究の積み重ねができた。
- ・次年度は全国大会を兼ねるので、県中教研と県音研の連絡調整を密に行ってほしい。
- ・指導計画を立てる際に小学校とのつながりをもっと意識したい。
- ・デジタルコンテンツのソフトを県レベルで各校に配付してほしい。
- ・せつかく年に一度みんなで会うので、合唱や合奏等体験的な活動があるとよい。

＜美術部会＞

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

〔東部〕

- 今年度は2年ぶりに部員全員が集まり、研究大会を開くことができ大変有意義であった。ICTを効果的に活用した授業について共通理解を図りながら、今後の授業改善に向けた意見交換等を活発に行うことができた。
- 教室中のビデオ撮影で、生徒の作品の様子を具体的にみることができよかった。
- 学校には美術科の教員が一人しかいないので、短時間だったが、グループ協議ができたのでよかった。
- 生徒は、身近な内容だったため、見通しをもって活動していた。
- 美術科でのICT活用の視点がもたらえた。生徒はレーダーチャートの結果を基に意見交流をし、客観的な意見を参考に制作することができた。
- アナログとデジタルの使い分けや共存等、ICTの使い方について考えることができた。
- 配置や色彩等の変更を容易にできるといった利点を見て取ることができた。
- 鑑賞や資料検索のためではなく、描画ツールとしてタブレットを使用する授業を見るのは初めてだったので、大変参考になった。紙と鉛筆で描くことに苦手意識をもつ生徒でも、タブレットを活用することで自分のイメージを表現することができていたように思う。また、描画ソフトを活用することで表現の幅が広がっていた。
- 描画ツールを用いた作品制作で、生徒たちは自身の制作に感覚的に取り組んでいた。もちろん慣れるまでに時間はかかるという難点はあるが、やり直しが何度も可能な描画ツールでの制作は、生徒たちの表現の幅や可能性を広げ、より前向きに取り組ませるための一助となっていた。
- タブレットとスケッチブックを選択できるのは、描画が得意な生徒、描画が苦手でもタブレットを得意とする生徒、それぞれのよさを生かすことができるよい提案であったと思う。どちらも取組の過程を残しておくことができるので平等に評価できる。タブレットを活用して作品づくりをすると、指導者側は全員に同じようにタブレットを使用させる方向で進めてしまいがちであるが、選択させるのもありだと納得できた。
- 生徒は手書きとタブレットPCを用いた制作のどちらかを選んで取り組んでおり、そのように教師側が描画方法を始めから指定せずに、選択できるように指導されていたのがとてもよかった。生徒が一番使いやすく、制作に最も適している方法や道具を選ぶという意味では、ICTか手書きかの選択も大きな意味がある。あくまでもICTを生徒の制作の1つのツールとして扱う姿勢は、この先の美術科の授業の流れにおいても重要になってくると感じた。また、手書きしたものを写真で取り込み、その上から作図ツールを重ねて制作していくという手順も、とても理解しやすかった。
- 振り返りシートに、毎時の制作過程写真（もしくはスクリーンショット）を挿入して記録させていた。ICTによる制作だとトライアンドエラーが簡単だが、その一方で記録を残しづらいという短所もある中、毎時の進捗を丁寧に残させており、評価材料としてもとても有効だと感じた。
- 平田調査官の講義は、学習指導要領の趣旨をより身近な視点から説明され、普段の授業での取組や教師の指導姿勢の面から気付かされるが多かった。

〔西部〕

- 研究の視点の「発想を広げ構想を深めるため」に迫るための手立てが工夫されている取組であった。
- 本年度の研究であるICTの効果的な活用について、動画を活用したり、家の写真をアイデアスケッチでの段階で取り入れたりするなど様々な工夫があり、参考になるものであった。
- どの生徒にとっても魅力的な「染色」を取り扱ったことによって、手段としてのICTについて研究しやすい授業となった。
- 事前準備がしっかりとされていた。美術を苦手としている生徒も含めてみんなが楽しめる題材であった。
- 手軽に構想を練り直したり、作業手順やポイントをいつでも確認できるようにしたりするために、ICT機器を効果的に活用して、見通しをもって制作できるような手立てが講じられていた。
- ICTを活用して染物のデザインを考えることで、何度でもやり直ししながら試行錯誤していたことは効果的であった。
- 試行錯誤しやすいデジタルワークシートを紙媒体とともに準備しておく点でも、一人一人のやりやすさに配慮していてよかった。
- 染物の試作を事前に行うことで、どのように染めればどんな作品になるかをイメージしながら話し合いを進めることができ、効果的であった。
- 参考作品や、先生が身に付けていた作品が生徒の意欲を高めていた。また、試作の体験を生かした発言があり、話し合いが活発に行われていた。
- ICT（タブレット）を効果的に活用し、生徒たちの意見交換がとても活発に行われていた。生徒たちはしっかりと自分の考えや根拠をもって理由を述べていた。互いの考えを深め合い、よりよい作品をつくりたいという姿勢が伝わってきた。
- 生徒はオクリンクを用いて、自分の考えたデザインを班で共有し、他の生徒からの意見をすぐに反映させていた。
- ICT機器の有効的な活用により、藍染の案を容易に手直しでき、改善前と改善後の構成の変化を全体で分かりやすく共有できていた。
- ICTの活用と非ICTのそれぞれのよさについて改めて考えさせられた。
- 構想を練る際に適しているソフト等の情報を得ることができてよかった。
- 研究授業では、グループによる話し合い活動において、友達の思いに触れたり、相手へアドバイスしたりすることで、自分の作品を振り返ることもでき、生徒が互いに作品にじっくり向き合う機会となっていた。

- 振り返りでは、話し合いによってまとまった自分の作品構想を発表する機会をもったことで、個々の生徒が制作への意欲を膨らませることができていた。
- 前日、東部地区にて、平田朝一先生が講演された「美術科の特質や学習過程を踏まえたICTの効果的な活用」について、県部長の藤田みゆき先生からの伝達講習会があった。「題材のねらいに応じて吟味し、ICT端末を効果的に用いて指導を行うことが重要」「ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう、十分に留意することが必要」など、お忙しい中、分かりやすくまとめてお話しいただいた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【東部】

- 触れ合いが制限された場合に有効なICTだが、有効性の検証がこれからの課題でもあると思う。
- 今回、コロナの感染対策で、参観がほぼリモートになったため、例年のように生徒の様子や描かれたものを個別に観察できなかった。来年度もリモートの可能性が高いのであれば、事前に撮影のポイントを検討、共通理解しておくとういのではないかと。例えば、生徒の活動場面では、先生や生徒の様子だけでなく、ワークシートの記入部分をアップで撮影するなどされるとよいと思う。今回は途中からそのような指摘があったのか、後半は少し分かりやすくなった。
- 1年生の頃から制作のアイデア出しにはタブレットを活用するなど、ICT機器の操作に慣れさせ、3年間の指導計画に基づいたタブレットの使用が必要だと感じた。
- 学習指導要領の完全実施に向けた授業改善
- ICT活用の推進とその扱いに関する危機管理意識の向上（生徒の情報リテラシー能力の育成等）

【西部】

- 班の中で「この模様は藍染めでは難しいのでは？」という意見がいくつか出ていたので、全体で共有し、制作が可能かどうかを明確にするタイミングがあればよいと思った。
- 話し合い後にデザインを考え直す際、どのような視点をもてばよくなったのか。
- 縦型のタペストリーに対して、パソコンの画面が横だったので、画面を取り外して縦型に置いて考えさせる工夫があればよかった。また、話し合いのときは、自分のパソコンではなく、中央に一台だけ置いて話し合いを進めるとよかった。
- 話し合い活動では、相手にアドバイスをするとき、なぜそうした方がよいのかなど、アドバイスの根拠となる理由も含めて発言できるようにすることが大切である。
- ICTの活用については、各学校での機器や導入ソフト等、環境の違いがあり、どの学校でもすぐに取り組めるものではない。
- 授業者のICTのスキルの違いを少なくしていく研修や、誰もが簡単に活用できるソフトの開発等、今後の研究が待たれる。

III 大会前の諸準備、諸会合について

【東部】

- 授業資料がデータでいただけたことで、部員に配布しやすくてよかった。
- 製本や資料配付のための集まりがなかったのはよかった。来年度以降もメールで済ませられることはメールで行えばよい。
- △もし可能なら、9月の郡市の研究会（9月下旬にあることが多い）までに、授業の流れの概要、何を使うか（今回はグーグルの描画ソフト使用）などの情報を一旦知らせていただきたい。事前研修ができて、当日の研修もより深まると思う。

【西部】

- 今回、射水市では美術科教員の不足等により、特別支援級担当の教諭が授業をすることになった。何年間か美術部会を離れての西部地区研究授業はとても負担が大きかった。会場郡市は今後数年分が定期的に決められているが、郡市の会員状況を見て検討し直す機会があればよい。

IV 研究大会当日の運営や内容について

【東部】

- リモートであっても、部員が一同に集まって研修できたことはよかった。
- 部員同士で話し合う時間があつたのはよかったが、より多くの意見や感想、他の先生方の取組等が聞きたかったので、もう少し発表時間があつてもよかった。（プラス3～4グループほど）
- 感染対策等で短縮した形での研究協議となったものと思われませんが、それぞれが協議した内容をもう少し広く聞いてみたかった。
- コロナの感染状況等に配慮し、急遽、教室廊下・モニターでの視聴となった。特に大きな問題はなかったが、部員の先生方が生徒や作品を間近で参観することができなかった。
- アドバイザー講義は大変勉強になった。アドバイザー講義は毎回実施してほしい。

【西部】

- 会場まで遠く、学校をかなり早く出発しなければならなかった。開始時間をもう少し遅らせることはできないか、という声があがっていた。範囲の広い西部地区大会なので、特にその点については5教科との差別化があつてもよいのではないかと。慌てることでの交通事犯・事故等の誘発リスクを減らすべきだと感じた。

- 美術部会の研修主題に基づき、主題解明のため、積極的にICTを活用された授業提案だったことが大変刺激になった。ICTのメリット、デメリットについて授業を通して考えが広がったと思う。ICTであろうが非ICTであろうが、美術科で育成する資質・能力は変わらない。その点を外さず、効果的にICTを利用することが大切であると改めて感じた。
- 活発な意見交換ができたため、考えの広がり、深まりがある有意義な協議となった。
- 高岡市からのICT実践の紹介があり、とてもよかった。来年度はアドバイザーがあるのではなくなると思いますが、ありがとうございます。
- 研究授業同様、ICTの活用に一貫された発表内容であった。東部大会での授業力向上アドバイザー平田朝一先生の講義伝達をはじめ、戸出中の石黒教頭先生のOneNoteを使った実践報告は、今後のICTを活用した授業の可能性を感じさせられ、大変参考になった。
- 東部大会の内容は伝達によるものであったため臨場感には欠けるが、内容は大変よかった。実践事例が（ご自身の実践も含め）多く取り上げられており、刺激をいただけた。いかにICTを持続的に取り入れていく仕組み（必然性）をもつかが大切であると思った。
- 藤田教頭先生に伝達講習していただき、ありがとうございました。しかし、1日でまとめられるのは大変だったかと思います。引き続き、西部か東部、片方の地区は配信でもよいので検討していただけることを望みます。
- 授業力向上のためのアドバイザー講義は、リモートで東西ともに受けることができないものか。
- △アドバイザー事業については悪くないが、リモートでの講演が当たり前になっている昨今、こちらまで来ていただかなくても遠隔でのリモート講義や、動画配信で講演を見ることで済ませられるのではないかと。また、今回藤田先生がしてくださったような伝達講習会の形態で十分内容が伝えられたと思うので、このような形式でも構わないのではないかと。であるならば、この日にどうしても実施する必要性は低いとも考えられる。せっかく会員がその場に一堂に揃うのであれば、その場で直接見て、触れて、気軽に質問することができるような内容、目の前でないと分からないような企画、会員同士の情報交換、授業力・技能・コツ等の伝達、継承等、より実践的なものを優先させられないだろうか。

V 各研究部会独自の意見や要望

【東部】

- 特別支援教育を担当しながら美術部会に参加している状況が常態化している。負担が大きい。1年おきの開催にならないか。
- △富山県内でも、地区によって使っているICT機器やOS・ソフトに違いがあり、その部分も相まって地区ごとでICTを用いた活動に落差ができていくのが現状である。各地区でのICTを用いた取組について情報共有できる場があれば嬉しい。

【西部】

- 射水市は、特別支援や道徳、特活と教科の両方に参加することができず、今回は久しぶりに美術部会に戻った先生が西部地区の授業を行わなければならなかった。県から射水市に、両方に参加できるよう働きかけていただきたい。
- 東部西部を一つにして研究大会を開催してほしい。
- △美術は時数が少なく、小規模校ではどんどん講師となっている。美術の教員として、他の教科にはできない「美術科としての大切な教育の役割」をいかに守っていけばよいのか。
- △美術科では、ここ数年で多くのベテラン美術科教員が定年を迎え、一気に若返ることになる。また、小規模校の美術科教員がどんどん講師に置き換わることにより、これまでレベルが高と言われてきた富山県の中学校美術科の教育力が低下させないためにも、ベテランの先生がこれまで蓄積し、培ってきた技量や勘所、コツというような財産を若い教師にどのように継承していくべきかを検討すべきである。

<保健体育部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【新川地区】

- ・導入時にダンスのプロに学んだことが、生徒の積極的な学びにつながった。
- ・タブレット（ロイロノート）を使い、動画や写真を共有し、有効活用することで主体的、対話的で深い学びにつながった。
- ・若手の積極的な提案授業に対し、中堅やベテランの視点や発言が加わり、様々な示唆が得られた。

【富山地区】

- ・単元全体を見通した単元構造図の作成→市中教研ともタイアップし、他単元でも作成した。

【高岡地区】

- ・学習専用端末を効果的に活用していた。柔道の授業で、本時の授業を終えて、前時と比べどのように変化していたのかを分かりやすく映像を使って示されていた。スローモーションや一時停止等を使い、変化のポイントが理解しやすい工夫がなされていた。
- ・技のポイントが示された掲示物、足の運びを示す足形、受け身の恐怖心を和らげるマット等が準備されており、生徒の主体的な学びの一助となっていた。

【砺波地区】

- ・試合の分析シートを用いて、バレーボールのゲームが行われた。自分たちのチームはサーブレシーブ、トス、アタックのどの地点でミスが起こっているか視覚化することができたため、効果的だった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

〔新川地区〕

- ・課題のダンスの難易度が高いので、グループによって進度に差があった。全員に課すのであれば、難易度を検討しなければならない。
- ・デジタルとアナログを使い分け、より効果的な手段を選んでいく必要を感じた。
- ・保健体育科におけるタブレットの活用方法（いろいろな活用事例とその効果）が分かる資料があれば配布してほしい。
- ・授業の前にオリエンテーションがあれば、授業や生徒の様子がもう少しかまえてよかった。
- ・協議会において、話合いの視点・課題があいまいに感じられた。そのよさもあるが、はっきりしていた方が議論も深まりやすいのではないか。

〔富山地区〕

- ・部員一人一人の研修に向けた取組姿勢とその深め方。

〔高岡地区〕

- ・授業の終わり振り返りの時間の工夫が必要であった。本時の目当てを意識して取り組んでいたか確認する問いかけや振り返りシートの問い方の工夫が必要である。
- ・受けと取りの役割分担や受け身の徹底、約束練習の行い方等について、安全面の十分な配慮が必要である。

〔砺波地区〕

- ・生徒同士のチーム内での話合いでは、「取りやすいところにレシーブを上げよう」「アタックを確実につなごう」などの課題が挙げられていた。しかし、その後のチーム練習では、チームの課題と練習がつながっていないチームが多かった。今後効果的な練習方法の提示の仕方等を検討する必要がある。
- ・男女共習で活動を行われたが、男女が交流する場面が少なかった。男女が交流しながら学習を進めることができるように、授業展開を考えていかなければならない。

III 大会前の諸準備、諸会合について

1 会場都市、会場校の決定

〔富山市〕

- ・問題あり→個人で依頼しているため、人事異動により赴任先が他の教科の発表と重なり、断られてしまった。

2 地区研究会

〔富山市〕

- ・余裕をもったスケジュールが必要。
- 3 資料の編集及び事前研修会 なし
 - 4 資料の製本や配布 等

〔新川地区〕 〔富山地区〕

- ・指導案等の事前配布資料がメール配信となったため、作業時間等の効率化が図れ、大変有り難かった。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

- 1 運営分担や日程 なし
- 2 研究授業 なし
- 3 研究発表 なし
- 4 授業力向上のためのアドバイザー講義

〔富山市〕 〔砺波地区〕

- ・大変有意義であった。

V 各研究部会独自の意見や要望

〔新川地区〕

- ・授業の展開（導入）が指導案と異なっていた。実際に行った展開でよいので指導案もそのように記載してほしい。

〔砺波地区〕

- ・協議会の小グループで活発に話し合った内容を、全体で意見交換する場面が少なかった。他地区がどのような形で協議会を進めているのか情報交換できるとよい。

<技術・家庭（技術）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

〔新川地区〕

- 授業内容において、あえてタブレットを使わなかったことについては、プログラミングが苦手な生徒も安心して取り組める手立てがあった。

〔富山市〕

- 技術分野を学ぶ、本日的な意義の中核である「生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること」の実例を具体的に示されたことで理解が深まった。

△研究主題である「いきてはたらく力につながる技術・家庭科の教育の推進」に向けて、生きる力を発揮するためには、全て統合的となる。ただ、学習指導要領の内容（１）（２）（３）を行うのではなく、つなぎ合わせる仕掛けが必要となる。

【高岡市】

- 第3学年の統合的な内容において、栽培と情報の内容を統合したスマート農業を題材にした授業は新しい試みで、生徒も意欲的に取り組んでいた。
- 3市が、同じ「D情報の技術」の(3)生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動について研究を進めていることが効果的であった。

【射水市】

- 第3学年で学習する統合的な内容は、どの学校も「指導過程」「評価方法」等で試行錯誤しているのが現状である。今回の授業は、「情報」と「生物育成」との統合的な内容であり、市技術科部会でも指導案作成の段階から協議を重ねて研究を進めることができた。主任指導主事からの助言で、3年間の学習の連続性を意識して統合的な内容を取り扱うことの重要性を改めて知ることができた。

【氷見市】

- 公開授業は、情報の技術領域と生物育成の技術領域の融合的な内容の教材であった。3年生の学習として既習事項を総合的に取り扱う内容として適切であった。

【砺波地区】

- 「情報」と「生物育成」の統合的な内容の授業が効果的であったので、今後、取り入れていきたい。

Ⅱ 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【富山市】

- 授業では、問題解決をできないまま終わってしまった生徒がいた。生徒が解決できなかったことを解決できることが大きな喜びとなるので、授業計画を工夫することが必要である。
 - 指導と評価の一体化をしっかりと考え、計画を立てることが課題である。
- △問題解決的な学習の充実を図るためには、そのための課題や発問が適切であるか研究していく必要がある。
- 特にプログラミングでは、小中の連携が必要である。校区の小学校と情報交換を行い、生徒の実態に合った指導計画を作成することが課題である。

【高岡市】

- △県内の先生方が、各郡市の大会の日時、内容が分かり、興味のある先生が他郡市の大会に気軽にできる体制があるとよい。（各市の中教研事務局に依頼が必要となる。）
- △情報についてさらなる教材研究が必要である。特にネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラムと統合的な内容における実践例を情報交換する場が必要である。

【氷見市】

- 生徒の発言を捉えていく中で、さらにエネルギー変換の技術領域や最適解を求める課題解決的な学習への展開にも広げていくことが可能であることを感じた。

【射水市】

- 第3学年で学習する統合的な内容の題材について更なる研究を進めていく必要がある。
- 半導体不足により、教材・教具が手に入りにくい状態である。今回は、なんとか教材の準備ができたが、生徒に身に付けさせたい力を軸に教材・教具の精選に努めていきたい。

【砺波地区】

- 感染対策で、参観するときに席を立つことができなかったため、生徒の詳細な動きが見られなかった。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について

1 会場郡市、会場校の決定

【砺波地区】

- 部員数が少なく、今後の運営が心配である。

2 地区研究会

【新川地区】

△話し合いが必要ならば、リモートで行った方がよい。リモートなら、各郡市部長も参加できるのではないかと。

【砺波地区】

△必要に応じての開催でよいと思います。

3 資料の編集及び事前研修会

【新川地区】

△話し合いが必要ならば、リモートで行った方がよい。リモートなら、各郡市部長も参加できるのではないかと。

4 資料の製本や配布 等

[氷見市]

問題点等は特になし。資料配布など、事前準備もオンラインをうまく使って、効率的に行われていたと思う。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

[砺波地区]

●学校が改修工事中であったため、駐車場係があればよかった。

2 研究授業

[新川地区]

○PCを使わないという新しい形の授業で、知識・理解の授業であったが、思考・判断を問われる場面もあり参考になった。

△当日使う学習プリント、それまで使われていた学習プリント等がデータでいただけると大変ありがたい。

3 研究発表

4 研究協議

[新川地区]

●電子黒板があれば、見やすいと感じた。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

[新川地区]

○新しく赴任された教科調査官が実践例を中心に話をされていたのでよかった。相模原市のタブレットだけでなくスマホも使うという授業には大変興味をもちました。自分の勤務している地域は、施設設備は大変よいのですが、タブレットの持ち帰りが一部の例外しか認められていないので、調査官の話は大変参考になりました。

[砺波地区]

●動画での視聴であったが、音声聞き取りにくかった。

V 各研究部会独自の意見や要望

[新川地区]

△各学校で使われている教材やワークシートのデータなどを交換できる場があるとよい。

[富山市]

△来年度は、研究授業を行わず、講演会や研修会を行う最初の年度となることから、富山地区、新川地区がともに学ぶことができ、意義ある大会となるように準備を進めていきたい。

[高岡市]

△1年生では1か2の課題解決、2年生では3か4の課題解決、3年生では5以上の課題解決に向けての授業展開になるよう授業を構想していく必要がある。

[氷見市]

△東西両地区とも部員数の激減により、深まりのある研究成果を挙げることが困難になってきているのではないかと推察する。東西1部会での開催など、より時間と人数をかけて、より深い研究を進めるような工夫はできないものだろうか？

△技術科部員数が減っており、更なる組織の改編が必要と思われる。また、会議をリモートで実施するなどしてほしい。

<技術・家庭（家庭）部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[砺波]

○遊び道具の製作を通しておもちゃ作りという体験的な活動の共通の土台ができ、その後の幼児についての話を深めるために、効果的だった。

○製作中はタイミングのよい声掛けで、おもちゃ作りのねらいを確認しながら製作していた。

○体験を通して幼児と接する時のポイントをまとめる時、ヒントカードの提示があったのが効果的だった。

○学習端末の活用場面では班の話し合いのまとめをグループ代表の生徒がさっと入力して操作に慣れていた。話し合ったキーワードを大型画面に出して、他のグループの考えを提示していたのが考えを深めるのに効果的だった。

[高岡]

○モデルのAさんを立てて課題設定したことで、生徒は幼児への接し方がイメージしやすかったと思われる。

○既習事項を踏まえた幼児の関わり方について、ぶんぶんごまの製作を通して考えさせるという授業づくりが面白い発想であった。幼児はその場にはいないが、体験を通して学ぶことができる教材であった。

○幼児と一緒にぶんぶんごまを作ることを想定していたことで、生徒は幼児の気持ちに寄り添った声掛けや支援を考えることができた。

- グループの話し合いを通して出てきた意見を、ICTを活用して上手く全体に広げることができていた。
- 積み木をイメージしたポートフォリオに授業の振り返りをまとめさせることは、内容のまとめりごとの学習の積み重ねや学びを実感できる工夫であった。

【射水】

- 消費生活で出てきたモデル像が再登場するのがよかった。家族構成や本人の特性等を予め設定しておくことは、場面を具体的に考えさせるのに有効だと思う。
- 生徒がぶんぶんごまを自分で作って遊んでみることで、大人の幼児への関わり方が理解できていたのではないと思う。

【氷見】

- ぶんぶんごまを製作する体験を通して、子供における遊びの意義、子供と一緒におもちゃを製作しながら遊ぶことのよさ、子供との関わり方について生徒に考えさせる、充実した1時間でした。授業の最後に流した動画も、授業で考えたことを一般化する上で効果的だった。
- 教師の声かけのタイミングや、ぶんぶんごまの材料や道具にも工夫があり、非常に参考になった。
- 「幼児の生活と家族」の授業の終末に生徒が書くワークシート（積み木を表したワークシートに1時間ずつ振り返りを書く）も参考になった。
- 部会2のワークショップでは「指導と評価の一体化」の本や指導要領を改めて読み、授業の目標や評価について考える機会になりました。本のどの部分をどのように読むのか、読み方を学ぶことができたと思う。

【富山】

- 深い学びにするために、生徒がやってみたい（必要感）と思うような課題の設定を行ったことは、効果的だった。
- ICT機器の活用は、生徒の思考を深めるために効果的だった。
- 授業のねらいに沿ったグループでの話し合い（学習形態の工夫）によって、思考の深まりが見られた。
- 振り返りの時間が確保されていた。生徒は、自分の言葉でワークシートを記入し「表現」をゴールにすることで、学んだことが定着した。

【滑川・中新川】

- 生徒の多くが「自分で汚れを落としたい」という意欲を引き出すことができた。
- 「いきてはたらく力」に対して、自分に落とし込めるような授業内容で参考になった。
- 部会協議では、グループ内で色々な意見や考えを聞くことができてよかった。

【下新川・黒部・魚津】

- ICT、タブレットの使い方が参考になった。ワークシートを発表するときにはパワーポイントでまとめてあったのでスムーズに行われていた。
- 生徒の発表内容御しかり把握してあったので、それが話し合いにつながっていた。
- 協議会では、日頃の悩みを話し合うことができてよかった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【砺波】

- △ヒントカードの出すタイミングが生徒の発言をつなげるキーワードとして後で出すと生徒の発言から論理的に思考をつなげることができたと思われる。今後の授業でもそのキーワードは幼児とのふれあいで繰り返し使用して、理解を深めていけるとよいという意見があった。

【高岡】

- ぶんぶんごまの製作に時間がかかったり、コマに夢中になっていたりする生徒がいたため、グループでの話し合いの深まりが十分ではなかった。製作時間を短縮する工夫をして、グループや全体での考えを共有する時間を確保するとよい。
- 終末で視聴させた「流しそうめんづくり」の親子の動画は、視点がぼやけるのでなくてもよかった。幼児への声掛けの工夫については、コマ作りを通して十分考えが深まっていた。

【射水】

- △流しそうめんの動画を最初に見せるとどうか。
- △オクリンクに提出されたワークシートの発表は生徒にさせたらよかったのではないと思う。
- △ヒントカードを出すタイミングが早かったと思う。もう少し意見が出て、もう出ないかもというときに出すと効果的で、生徒が自分で想像して考えられたと思う。

【氷見】

- △授業について、同じ授業を別々のクラスで時間を続けてできるように、材料や道具の入ったかごを、活動しながら整理できるように各班にくずかご（新聞やチラシを折ったものでよいと思います。）があればよかったのではと思った。（授業が終わって生徒が教室に戻ったら、牛乳パックを入れるだけの状態にしておく。）

【富山】

- 指導と評価の一体化。評価方法のさらなる工夫や改善が必要である。グループでの話し合いの時間が単なる情報交換にならないように気を付けたい。

【下新川・黒部・魚津】

- △仕方ないかもしれないが、授業者の負担が大きいため、普段の授業を見ていただくという雰囲気になればと思う。

【滑川・中新川】

- ・ホワイトボードの大きさが、もう少し大きい方が見やすかった。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

- 1 会場郡市、会場校の決定
- 2 地区研究会
- 3 資料の編集及び事前研修会
- 4 資料の製本や配布 等

【氷見】

- 資料の製本については、来年度以降も各自で印刷や製本を行うのでよいと思います。
・質問として、部員のいない学校へは、今年度は部長から教頭先生と教務主任の先生に送付しました。
両方必要なのか、教頭先生のみでよいのか教えてください。

【富山】

- メール配信でのデータの配付は効率的でよい。今後も継続していきたい。

【下新川・黒部・魚津】

- 授業者が早い段階から指導案を作成し、計画的に準備をしていたのでスムーズに研修が進められた。2市1郡で協して研修を進めることができた。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

【砺波】

- 各学校へ資料をデータで送る作業は、各郡市部長が地区ごとに行っていただき大変助かった。

【高岡】

- 研究授業の成果と改善点を付箋に記入する準備がしてあったので、視点をもって主体的に授業を参観することができた。
- 部会競技②では、評価規準の作成について指導主事から整理して教えていただき、大変ありがたかった。また、グループで学習指導要領解説などを見直ししながら検討することができ、大変勉強になった。

【射水】

- 協議会Ⅱで指導主事から指導案の評価規準作成について具体的に教えてもらったことが大変良かった。

【氷見】

- △役員だったので早めに会場校に到着したが、会場校の出入り口が下校中の生徒や迎いの保護者の車、これから出張に行かれる先生方の車で混雑しており、会場校に車で入ろうとしたら、保護者の車の陰から生徒が自転車が出てきてドキリとしました。駐車場に係の先生がおられました。生徒が帰るまでは学校との出入り口にいていただいたほうがよかったのかもしれない。

【富山】

- 遠方から集まることを考慮し、授業開始の時刻を設定していただいたことがよかった。

【下新川・黒部・魚津】

- 協議会場は机をなくして椅子だけだったが、すぐにグループにできた。また、湯茶を自分で準備すると会場準備の担当者も負担がへるので今後も継続していけば良いと思う。

【滑川・中新川】

- 協議終了時刻が予定より遅れ、終了時刻が過ぎてしまった。受付時間を少し早めて研究協議の時間を十分に確保する必要があったのではないか。
- 2 研究授業
- 3 研究発表
- 4 研究協議
- 5 授業力向上のためのアドバイザー講義

【氷見】

- ・会場校は、年度初めから、たくさん準備をされていたと思います。ありがとうございました。

Ⅴ 各研究部会独自の意見や要望

【氷見】

- △研究大会は、新しい情報を取り入れたり、自分の実践を振り返ったりするための貴重な機会だと思います。今後、郡市や東西の連携について考えていかなければいけないと思います。
- △若い先生が増えているので、部会責任者等の引き継ぎがスムーズに行えるようにしていく必要があると思います。

【高岡】

- 西部地区は部会の範囲が広域なため、授業開始時間が14時だったので余裕があってよかった。

【射水】

- 次年度以降の研究大会スタイルを早めに明確化していく必要があるのではないかと思います。
- 正規の教員の数が少ないので負担や負担感を減らしていかないと、全体の力が弱くなってしまいます。毎年部長か授業者をやっており、ずっと負担がのしかかっている。

【下新川・黒部・魚津】

- 今後も2市1群で研修をする機会を設けていきたい。

＜英語部会＞

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

【共通】

- 3年ぶりに会員が集まって実施することができ、授業を見せ合ったり、情報交流したりすることでよい刺激とすることができた。

【新川地区】

- 参加会員を生徒の学習班の数と同じ9グループに分け、担当の班を中心に授業を見てもらったところ、個々の生徒について細かく観察ができ、効果的であった。
- 次時でALTへインタビューするという場面設定がはっきりとしており、グループ学習で丁寧に考えを深めていた。
- 事前にとったVTRを活用するなど、分かりやすい指示となっていた。
- 授業力向上のための講演会では、直前の研究授業に触れながら話していただき、難しい話題をわかりやすく解説していただけた。英語を通してどのような生徒を育てたいかを常に意識した指導が大切であることを改めて確認できた。

【富山地区】

- 3学年すべてで研究授業を行うことができた。
- 目的・場面・状況の設定のもと、英語を用いて自分の考えを伝え合う言語活動が行われており、学習指導要領が求める授業の在り方が意識されていた。
- 協議会では、主にグループ協議を中心に実施し、活発な意見交換が行われ、参考になったこと、改善策や提案等、多くの意見をシェアすることができた。
- 「とやまグローバル人材育成促進事業」により、岐阜大学 滝沢弘人先生による講演を行い、研究授業を絡めて、学習指導要領を踏まえた効果的な指導と評価の在り方について、具体例をもとに教えていただき、大変有意義であった。

【高岡地区】

- 授業会場が1つであったが、協議会場にライブ配信できるようにし、分散することで、多くの参観者に対応することができた。
- デジタル教科書を活用した日常的な授業内容を提案する研究授業としたことで、紙媒体にはない機能のよさを実感できた。一人一台端末の活用について意見交流が活発に行われた。

【砺波地区】

- 「修学旅行で見つけた紹介したい場所やものをALTに紹介するスピーチをよりよいものにする」という明確なゴールが設定された授業であった。
- インタビューマッピングをすることで、話したいことが明確になったり、相手との対話から言いたいことが新たに見つかったりするなどし、スピーチの内容をよりよいものとすることができた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

【新川地区】

- 即興での会話や学びを深めることに焦点を置くなら、書くことよりも即興性の高い話す活動を中心にしてよかったのではないかと。準備段階の授業の展開にもう少し工夫が必要であったとの意見もあった。
- 言いたいという思いと英語の力とのギャップをどのように埋めていけばよいか。日本語から英語に直すという思考に対しての指導の手立てはどうすればよいか。
- 中間指導の効果的なあり方について、検討していく必要がある。

【富山地区】

- 部会協議①、②の時間の割り振りについて部会協議②で講演を行うこととなる場合、どうしても部会協議①の時間が少なくならざるを得ない。一方、他の部会では、部会協議①の時間をさらに短くしている例もある。部会協議の効果、効率の両面を念頭に、協議の進め方を考えていく必要がある。

【高岡地区】

- それぞれの意見や考えを伝え合う時間があつたらさらにより研究授業となった。
- 研究大会の日程が毎年同時期のため、授業内容の変化が乏しくなりがちである。切り口を変えて新たな視点で取り組むことも可能ではあるが、数年周期で、研究大会の開催時期を1か月程度ずらすといった工夫があつてもよいのではないかと。

【砺波地区】

- ALTを授業の中でどのように活用していけばよいか、さらに検討が必要である。
- 中間評価を入れ、生徒の工夫を全員で共有する場面を効果的に取り入れるとよい。

III 大会前の諸準備、諸会合について

会場校の決定、地区研、事前研、資料など

- 資料のメール送付等、事前配布していただくことで、打ち合わせが円滑にできた。
- 授業案の作成にあたり、市の役員会や部会で多くの意見をいただきながら進めることができた。
- 原稿の締め切りが7月下旬のため、5月末の群支部長会以降に、地区ごとに集まる機会をもつとよりスムーズに進めることができるのではないかと。
- 富山地区は、令和20年度まで授業校のローテーションを決めているが、学校の事情等もあるので、その確認をしながら、会場校をスムーズに決定していきたい。

IV 大会当日の運営や内容について

日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

- アドバイザー事業では、教科書がどのような思いでつくられているのかや学習指導要領を踏まえた指導の在り方について、様々な視点から話を聞くことができ、今後の指導改善につなげるよい機会とすることができた。
- 英語部会では、アドバイザー事業と合わせて、県のグローバル人材育成事業があり、4地区すべてで講演をいただいている。講演の時間を確保することを考えると、授業を終えての協議会の時間が短くならざるを得ず、研究主題に迫るところまでの十分な協議とならないことがある。
運営方法を工夫し、より中身のある協議会となる工夫について考えていく必要がある。
- タイトな日程で進めている。地区によっては、会場校までの移動に時間がかかり、あわただしく移動しなければならない。会場校で待機する生徒のこともあるが、もう少しスケジュールに工夫を加えることができないか。
- 講演が長くなり、時間を延長してしまった部会がある。スケジュールを変更することなく進めていきたい。

V 各研究部独自の意見や要望

特になし

<道徳部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- 授業校では、校内で講師を招聘して研究授業や指導案検討を行うなど、学校全体で計画的に道徳科の研修に取り組み、校内でのバックアップ体制もとられていた。
- 大会当日は、授業校の先生方も各学年の授業や、授業後の協議会に積極的に参加していた。
- 公開授業が3つ準備されており、教室で直接生徒の様子を観察することができ、学びの多い研修とすることができた。
- 学級経営の素晴らしさが伝わる授業の雰囲気だった。
- 教師と生徒のよい関係が見られた。授業規律があり、発言している生徒の意見を温かく受け入れる姿があった。
- 互いの表情が見えるコの字型の座席や教師の共感的な声かけが発言しやすい雰囲気につながった。
- 事前のアンケート活動が、中心発問につなげる手立てとして有効であった。
- T1とT2で役割を分担することで、生徒の思考を止めず、スムーズに進んでいた。T1が生徒の発言を促し、T2が板書に専念することで、生徒の意見を十分に引き出すことや意図的指名、構造的な板書につながり効果的だった。
- 個、ペア、全体と流れを作ることで、様々な意見に触れ、思考を深めることができた。
- 教師の問い返しは、生徒の本音を引き出すのに効果的だった。
- 教師の範読に抑揚があるなど、工夫されており、生徒たちは集中して聞いていた。
- 動画や画像等、ICTを活用した授業が、生徒の心に訴えたり、思考を深めたり、余韻を残したりする手立てとして効果的だった。

[西部地区]

- 資料を朝活動時に教師が範読していたため、授業での個で考える時間や全体で話し合う時間が多く確保さ、話し合いが深まった。
- 導入では、「友情」について事前アンケートの結果を伝えることで、自分事として考えていた。
- 教師の揺さぶりの発問や問い返しにより、異なる視点からの意見が出た。
- 自己を見つめるとともに、多面的・多角的視点から考えを深めるため、出てきた意見を意図的に取り上げ、根拠を聞いたり、広げたりしながら効果的な話し合いが行われた。
- ICTを活用することにより、意見が言えない生徒でも自分の考えを表現することができる。また、書くことに困難のある生徒や、書き終わった生徒も他の生徒の意見を読むことができ、思考を深めていた。
- ねらいに迫るための話し合いの場面では、タブレット端末を用いることで、生徒の考えを引き出し、互いに比較し、効果的に話し合いが行われた。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- 教師と生徒1対1の対話が多く、グループで意見や考えを共有できる場面があればもっとよかった。意見の深まりにもつながると思う。
- TTによる授業では、授業者同士の連携が必要になるため、事前準備が一人で授業する場合よりも難しくなる。
- 発問にこだわること、生徒が揺さぶられる内容を、資料を読み込んで考えることが大切である一方、「こと」や「もの」、「感情」や「行動」、何を問うべきかを精選しなければならない。
- 動画を流すタイミングについては賛否が分かれるが、最後でなく、最初に流すことで、より生徒の思考を深めることができる。
- 生徒に考えさせる時間を確保するためにも、内容理解に時間をかけ過ぎず、タイムマネジメントをすることが大切。国語の授業のようにならないようにする必要がある。
- 導入で生徒に問いかけたことを、授業の終末でも再び自分事として捉えさせる問いかけをすることで、より思考を深められるのではないか。
- 板書で、キーワードなどを黄色のチョークで囲っていた。そうすると生徒は「それが答えだ」と思い、

思考を狭めてしまう可能性があるのではないかと。

- 多角的な視点を取り入れるためにも、問い返しの工夫が必要である。
- ねらい（授業の目標）をもって授業をするのはよいが、生徒がその話を見る観点は様々あり、生徒の思考が狭まらないように注意する。
- 中教研道德部会としての授業づくりと校内での授業づくりとの兼ね合い、連携の在り方。

[西部地区]

- 朝活動において、道德資料を範読し、その感想を参考にして主発問を考えるとすることを勧められていたが、50分で授業を終えることが大事であると考えた。
- 範読中に、語彙や資料の説明が入ると、物語への集中が途切れてしまうように感じる。
- 自己内対話を促す場合は、過去の自分の経験を振り返るなどの視点を設けるが必要である。
- 具体的な場面を準備したり、生徒の経験談を聞くことができるよう意図的に指名したりすることが必要である。
- 問題解決的な学習、体験的な学習を有効に活用することが、道德的価値に迫る話合いの場をつくることにつながると考える。指導のねらいに即して問題解決的な学習、道德行為に関する体験的な学習を適切に授業に取り入れる工夫をしていくことが必要である。
- 登場人物が5人いたので、どの立場で考えさせるのか、どの人物に強く共感するのか等、多角的に考えさせると効果的である。
- 授業の終末に、最初のアンケートに戻り、本時のねらいについてももう一度考えたり、今までの考えとの変化に気づかせたりすると効果的である。
- 事前アンケートや、教材提示等にICTを活用していくことは、大いに効果が認められる。目的化することなく、方法としてのICT活用の工夫が必要である。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

3 資料の編集及び事前研修会

- 事前研修で運営委員が全員集まって指導案を検討したり当日の運営について確認したりすることができなかった。
- △郡市によって教科書が違うため、著作権の関係で教科書の資料は研究発表資料には掲載せず、当日受付で配布し、大会終了後に回収した。教科書が違う郡市の先生方には、事前に資料と指導案を照らし合わせたうえで、授業を参観していただくことはできないが、この形でよいものか。
- △オンラインで事前研修に参加せざるを得ない状況だった。しかし、機器の接続状況や画像・音声の不鮮明さ等により、満足に事前研修を行えたとは言いがたい。今後は感染拡大の状況に対応できるシステムを構築していく必要がある。

4 資料の製本や配布

- 今後も、データをPDFファイルで各校に送り、各自プリントアウトして当日持参する形を継続するとよい。会場校で印刷・製本する手間が省けたことは成果として大きい。
- △授業の際に座席表が欲しい。
- △資料提出日について、授業者が部会責任者へデータを送信する締切日と、部会責任者が教育事務所等に郵送する締切日と同じになっているが、教育事務所等にはその日までに必着で郵送しなければならないと思うので、授業者から部会責任者への資料提出日は早めた方がよい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

- 会場校の先生が手伝ってくださったので、大変助かった。
- 担当地区や会場校の先生方でスムーズに運営されていた。
- 遠方の運営委員が早めに集まるのは厳しい。
- 運営者の当日欠席が多く、予定通りにいかないことがまま見られた。最小限の人員で運営できるよう業務内容を見直していく必要がある。
- 各学校から代表者1名のみでの参加となった。コロナ禍のため仕方がないことだが、より多くの人が研修会に参加できると嬉しい。
- 中間考査の作成・採点や文化祭の運営・準備と重なり、多忙な時期であった。学校行事は地域によって時期が異なるが、日程について検討が必要である。
- △アドバイザー講演が70分あるので、部会協議①、②ともに60分とするなどの時間配分はできないか。

2 研究授業

- タブレット端末を使うと有効な場面や使う際の注意点について、研究を深めることができた。
- 参観者が、生徒の表情を見ることができるよう、余裕があれば、参観場所の横のスペースにもゆとりがあるとよかった。

4 研究協議

- 4人程度の少人数グループで行った。視点を絞った二色の付箋を使ったフリーカード方式は、よかった点や工夫が必要な点を出しやすく、多様な意見が出され、充実した話合いになった。
- 授業者や授業校の先生方も、グループ協議に参加したことで、当日までの検討課題や改善点も含めて協議することができた。
- 協議する時間が十分に設けられてよかった。
- 自分が感じたこと以外の視点を知る機会には中々ないので、貴重な時間だったと思う。

- 参加者のアンケートについて、市内の先生方にはクロムブックのクラスルームに書き込む形をとった。授業者も閲覧できるようにし、感想や意見を授業者に伝えられるようにした。
- 生徒の意見が出たときに、どのような声かけが次からの意見の質を高めていくかという視点が参考になった。
- せっかくの授業に対して、グループ協議が25分しかなく残念であった。時間があればもっと深められると思う。
- △研究協議の時間が50分だったが、指導助言20分、授業者の自評、各グループの協議内容の共有などを行うと、グループ協議の時間が10分強しか確保できなかった。より深く協議するため、グループ協議の時間を長めにとることはできないか。
- △指導主事の助言がもう少しゆっくり聴くことはできないか。(時間の都合上厳しいが…)
- 5 授業力向上のためのアドバ伊講義
- 講義を拝聴できたことは大変有意義な機会であった。
- 何がよくて、何がよくない(ふさわしくない)かが具体的に分かった。
- 道徳の時間の重要性を改めて感じた。今後も道徳の時間を学びの充実した時間になるよう努めたい。
- 様々な例を示しながら説明してくださり、興味をもって講演を聞くことができた。
- 今後生徒が元気になる授業を目指して頑張りたいと思った。その為には、教材をよく読み、教師側も様々な視点や切り口をもち、生徒の価値観を狭めないよう留意する必要があると思った。
- 担任が道徳をすることが当たり前となっているが、それぞれの教科の専門性を活かして学校全体で取り組む協力体制が大切であると感じた。
- 実践授業を重ね、教師自身も振り返りをしながら指導力の向上を目指したいと思った。
- 事前に提示された資料とパワーポイントのスライド画面を両方見ながら講義内容に耳を傾けメモを取るということが、非常に難しく感じられた。パワーポイントのスライド画面が資料として事前に手元にあると良い。
- 講師との連絡調整について、事務局と部会での担当者の2つの窓口がある。どちらに何を伝えるのか、講師の先生が混乱される場面があったので調整が必要である
- △パワーポイント資料が少し見えづらかったので、文章が少ないとありがたい。
- △講師の選定について、ご検討いただけるとありがたいです。

V 各研究部会独自の意見や要望

- △ICTを用いた道徳の授業の研修もあとありがたい。
- △例えば、参観した授業について、本日の授業で具体的にどのように評価をするのか話合ったり、アドバイスをもらったりする部会協議があると嬉しい。
- △3学年で授業が行われる場合、参観できない学年の授業についても共有するため、各郡市からの教員が参観できる授業も3学年に分けて教員を配置していただけるとありがたい。

<特別活動部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

[東部地区]

- ・クラスでの学級会のもち方について改めて考えることができた。
- ・クラスの良い点や改善点をグループで話し合い、全体で共有することは、よりよい学級経営のために効果的であった。
- ・授業内で代表となった2人が、書き方が分からない生徒や困っている生徒をサポートする姿が見られ、互いに学びあう環境作りができていた。
- ・課題を決める際の注意事項についても確認することができた。
- ・到達すべき学級の実態を生徒と共有することができるよう学級経営も進めていくことが大切だと感じた。
- ・3学年に分かれて、かつ広い会場での授業だったので、密になることなく授業を参観することができた。また、協議会も、3～4人の小グループで話し合うことができ、グループ数も少なかったので、グループ協議に時間をかけることができてよかった。授業者の先生にも各グループを回っていただき、質疑応答を交えながら協議を深めることができたと思う。
- ・生徒が自由に発言できる雰囲気、友達の発言を認め合う雰囲気があってよかった。学級のよい人間関係があるからこそ、学級活動でも様々な意見が出て、話合いが深まるのだと改めて感じた。
- ・広い会場だったので、生徒たちは板書が見えるのか心配であったが、ICTが上手に活用されており、各自が持っているタブレットで他グループの意見や板書されていることを確認できていてよかった。
- ・タブレットでのアンケート結果の提示は分かりやすく、動機付けに有効であった。
- ・生徒主体で学級会が進められ、日頃から落ち着いて進められているのだと感じた。
- ・よい発表の仕方や聞き方が身に付いていた。
- ・授業が学年ごとに分かれており、会場の教室に余裕をもって参観することができた。
- ・生徒の発表をする態度や発表を聞く姿勢がよかった。
- ・根拠を基に話をしている生徒が多くいた。
- ・タブレットを用いた画面共有は意見を効率よく共有することができていた。
- ・<「学級会」における「ふなはし『学び合い』スタイル」の活用>に基づき、学校全体で生徒による学級会の話合いができていた。
- ・担任の先生と生徒の人間関係のよさが伝わった。

- ・グループごとの活動で、一人一人に参加意識があった。

[西部地区]

- ・コロナ対策のため、2授業を広い会場で実施したのはよかった。
- ・2年生の授業は、1週間後に控えた「14歳の挑戦」を題材にしており、とてもタイムリーであった。
- ・ロールプレイは、生徒が採用希望者を演じ、テレビ番組をまねて事業所の代表役の生徒が採用・採用の札を上げた。ロールプレイによって場面が想起しやすくなり、楽しく問題点を考えることができた。
- ・本時の活動から生徒の「14歳の挑戦」に向けての意欲が高まり、終末では意思決定をしっかりと行うことができていた。
- ・志貴野中学校で行われた授業(2年、3年)は、いずれも学級活動(3)の一人一人のキャリア形成と自己実現であった。授業は、話し合いを通して、意思決定をしていく内容であったが、話し合いの進め方や発表の仕方などに担任の苦労が伺えた。
- ・高岡市では、夏季休業中と市研究大会(9月)の折りに部員が集まり、指導案検討を行ったが、教師が、学級活動のあり方、進め方を理解した上で、日頃から話し合いの進め方を指導しておくことが大切であることが分かった。
- ・ロールプレイが事前に収録してあり、スムーズに課題を捉えることができた。
- ・判定方法に、某テレビ番組の方法が使われており、楽しく課題に向き合えた。
- ・発表者には、仕方シートが用意されており、スムーズに発表できた。
- ・話し合い方のひな型や、パーテーションを利用した分類など、話し合いが円滑に進むような工夫がされていた。
- ・動画やタブレットPCを利用して、授業や振り返りを行うなど効果的に使っていた。タブレットPCを用いたアンケートは、集計結果がすぐに公開することができるので有効な使い方であった。
- ・キャリアパスポートを活用することで、夢や目標を想起しやすく、「14歳の挑戦」に対する思いを高めやすかった。
- ・生徒にロールプレイを行った動画を視聴させた。自分で演じたり動画を見たりすることで、生徒はイメージしやすかった。
- ・代表してパネリスト役の生徒に判断させていた。代表生徒の意見を聞くことで他の生徒も自分の考えをもちやすかった。
- ・部会協議②では、動画を視聴しながら学級活動の指導のポイント等について研修した。基本的なことについて、改めて確認することができ、たいへん有意義であった。
- ・事前に参観する授業を割り当てたことは、密を防ぎ生徒の学びの様子を見る上で効果的であったと思う。
- ・多くの生徒が知っているテレビ番組の形式を授業に取り入れたことで生徒の関心を高めただけでなく、評価する側が明白な視点で自分の考えを話すことができた。
- ・14歳の挑戦を受け入れる事業所の方の意見や、保護者の考えを示し見せることで職業体験における責任が生徒に伝わった。
- ・個人の学びの時間、グループ協議、各グループの意見を聞く活動が効率良く取り入れられており、意思決定に生かす材料が十分得られたと考える。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

[東部地区]

- ・合意形成の方法を見たかったが、合意形成まで至らなかった。
- ・生徒と実態として、さらに対話し、決定し、実践することができると思う。日頃の学級会の不足が考えられる。
- ・班での話し合いで終わることなく、学級全体の話し合いになるようにする必要がある。
- ・個人の課題とクラスの課題を分けて考えさせる必要がある
- ・合意形成の場面で、少数意見が流されてしまっているように見えた。多数決での合意形成もあるとは思いますが、少数意見をどう生かしていくか議論していかねばならないと思った。
- ・学級をよりよくするために、本当に必要なことは何か、話し合いの目的を確認しながら、議論をもっと深めることができればよいと感じた。そのような話し合いの進め方を今後も研究していきたい。
- ・授業の視点にあった「議題が切実感のあるもの」という点で、今回の議題で取り上げられていた6ヶ条はほとんど達成されているものであり、また教師からの提案ということもあり、生徒自身の切実感あまり感じられなかった。生徒自身が課題を設定するなど、提案の工夫があるとよかった。
- ・意見の発表時にはふせんや模造紙を活用して作成したものを黒板に貼って発表していたが、まったく見えなかった。タブレットを活用して発表することができたのではないか。
- ・休みの人がいる班では1人になる時間があり、「話し合い」が充実しているように見えなかったので臨機応変に班編成は対応する必要がある。
- ・学級での取組に対する提案は生徒からのものであったのかが疑問である。
- ・班単位での活動は、個人単位での合意形成がなされているのか分かりにくかった。
- ・実現可能な取組に落とし込んでいく工夫が必要である。
- ・少数意見の取り入れ方に工夫が必要である。
- ・ホワイトボードとICTの効果的な活用を研究する必要がある。
- ・合意形成をはかる議題かどうかの見極めをすることが大切である。

【西部地区】

- ・授業では、担任の教諭が意図的に生徒を指名し、意見を発表させていた。よく考えて指名しておられたと思うが、生徒同士が関わり合う場面が少なかった。生徒同士が関わり合うような発表になるとさらによいと思う。
- ・部会協議2の時間が30分と短く、講師の福山指導主事のお話が十分に聞けなかった。部会協議2の時間をもう10分でも長くできるとよいと感じた。
- ・部会協議会では、指導助言者から小学校での学級活動の様子を紹介していただいたが、中学校においても同様に理解と普及を進める必要を感じた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかわからないので、話し合い活動の制限がある中での研究大会開催が難しくなってくるのではないかと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で、授業会場や協議会場を2つに分けたことはよかったが、交流がなかったのも、互いにどのような授業、協議会が行われたか把握しにくい事態が生じた。今後はリスクとベネフィットを見極めて研究大会を運営するという、難しい舵取りが要求されていると思う。
- ・意思決定に向けた学習過程の中の「見つける」という活動をさらに充実させるための手だてがあればよかった。
- ・生徒の発表に際して、教員の引き出し方が非常に上手く、より意見を掘り下げたものになっていたが、発問の仕方や発表の際の注意点を事前に伝えることで、教員の誘導なしでも理由付けをした上での発言が出来たのではないかと思う。
- ・14歳の挑戦当日に向けて意識して過ごすことをそれぞれが決定したが、自分の決意表明をして終わったように感じられたため、日々振り返りの時間を設けるなどの決定後の取組について話ができれば意識の継続が可能である。
- ・「こんな中学生は来てもらっては困る」という現実的な事業所や保護者からの意見の提示は生徒に緊張感をもたせる上では非常に有効であるが、その上で励ましの言葉（教員からのものでも）があると生徒のモチベーションにつながる。
- ・協議会では授業について話し合う時間が十分確保されていたが、各学校の取組を共有する時間があってもよいと思った。
- ・話し合いの仕方や経験を積んで、日頃から身に付けさせておく必要がある。

Ⅲ 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

1 会場都市、会場校の決定

【西部地区】

- 今回は、大規模校での実施であった。広い部屋が多く、感染対策ができた。
- △授業者には、年度当初から、より意識を高めて学級活動に取り組んでほしい。

2 地区研究会

【西部地区】

- △題材が決まってからではなく、年度当初から、授業者を含めた研究協議会を行う必要性があった。

3 資料の編集及び事前研修会

【東部地区】

- △指導案決定まで、どれくらい幹事等が関わったのかが疑問である。
- △授業者だけが負担になっていなかったかを考える必要がある。

【西部地区】

- △コロナの影響で事前研修が十分に行えておらず、会場校や研究地区にお任せになってしまった。

4 資料の製本や配布等

【東部地区・西部地区】

- 今後もデータファイルによる配布を継続すべきである。
- △資料の配布が1週間前だったので、もう少し早くしてもらえるとよかった。

- △資料の配布が研究大会の1週間前であったが、市内の部員にデータを送付したり出張命令簿に日程を添付したりする必要があるので、もう少し早く届くようにしていただけるとありがたい。

Ⅳ 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

【東部地区】

- △会場校と運営側（担当地区役員）の分担の打合せがよくなされておらず、会場校に負担をかけた。
- △受付終了と研究授業開始が同じ時間のため、駐車場係や受付担当者が授業開始に間に合わない、ギリギリになることがあった。受付終了を授業開始5分前にしてほしい。

【西部地区】

- 大会に向けては、開催都市や実施校にかかるところは多いが、現行のままでよい。
- △特活、道徳、特支についても研究大会の際は生徒を午後放課にするか、開催時刻を遅らせる検討をしてもらいたい。小規模校ほど、自校の生徒対応が難しくなる。

2 研究授業

【西部地区】

- 授業者には負担がかかるが、研修の機会と捉えて、取り組んでほしい。

3 研究発表

※なし

4 研究協議

【東部地区】

△協議会①ではグループ協議を行ったが、意見交換が活発になるので、時間が不足した。協議会の時間を延ばしてほしかった。

【西部地区】

○自評後、参加者には、小グループで授業について話合いの時間をもったことで、グループでは、多くの意見が出た。主体的に協議会に参加できるよい方法である。

○部会協議Ⅱでは、指導助言者から小学校での取組を例に特別活動のもち方について紹介していただいた。若手教員も増えており、学級活動の進め方や大切さを知る機会となった。

△2会場に分かれての協議会であり、参加していない方での話合いの様子が分からなかったもので、情報共有する時間があれば良いと思った。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

【東部地区】

○授業力向上のためのアドバイザー講義ができてよかった。専門家の方の話を聞くことは自分の授業を振り返るきっかけになってよい。

△西部地区は行われなかったが、東部地区で行われているものをリモートで流す方法も考えられた。

V 各研究部会独自の意見や要望

△特活部会に所属する先生方が毎年変わることが多く、継続研修が難しい。

△西部地区大会だけでなく、他市の研究授業も見学できると次年度の研究に生かしてよいと思います。

△各市の研究授業の日程や授業者、授業内容が決定したら共通のファイル等に入力し、どの郡市の部長も見られるようにしていただくとありがたいです。

△学級活動の場合は、年間の指導計画に位置付いていないものは、生徒の課題意識と研究授業の実施時期にずれが生じることがある。

△小学校との系統だけでなく、進級時も継続した指導が行き届くように学校全体で、取り組んでいく必要がある。

△会場校に行く人数は制限しつつも、各校オンラインで授業の様子を見られるようにしてはどうか。

△若手教員が研修に参加できるように、各校の予定を調整できないか。(当日生徒午後放課を含め)

<特別支援教育部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

・1年を通した継続的、繰り返しの学習課程の設定がよかった。また、事前にそれぞれの振り返りがされていた点もよかった。表現技法に五感を使ったところもよかった。(東)

・事前に撮影した授業の様子のVTRの視聴による研究発表だったため、音声聞き取りにくいという問題もあったが、あらかじめ授業の記録を文字におこしたプリントが配布され、分かりやすかった。(東)

・メモや貼物等、生徒が頭の中にイメージしているものを具体的に表現するツールがあり、それらが、すぐに真似できそうなものだったので参考にしたい。(東)

・文章だけでなく、動画、イラスト等使い、資料の内容が分かりやすい提示だった。(西)

・知的障害学級と自閉症・情緒障害学級の2つの研究授業が行われ、それぞれ分かれて協議できたため、参加者は自分の担当学級にあった学びを得ることができた。(西)

・感染症対策のためリモートで授業を参観したが、自情級の生徒の精神面への配慮ができた。(東西)

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

・ビデオの視聴には毎年音声の聞き取りにくさが指摘される。改善が試みられているが、今回ももう少し明瞭に聞こえるとよかった。マイク等の使用工夫がいる。(東西)

・グループ協議のグループ分けがよかった。いろいろな学校の先生方と協議ができた。また、支援学級や通級は悩みも多く、校内で共有する相手が少ないのでグループ協議は貴重な意見交換の場となっている。もう少し時間があればよかった。(東西)

・今回も資料の製本、配布はメールによるものだったが、このやり方がよいと感じる。(東西)

・アドバイザーの講演がとてもよかったが、時間が短く、機会があればまた、話を聞きたい。(東)

・2つの授業を配信するため、準備の手間や当日の機器の操作の増員等、会場校や当日役員の負担が大きくなった。(西)

III 大会前の諸準備、諸会合について(特に問題点や要望があれば)

1 会場郡市、会場校の決定

・特になし

2 地区研究会

・指導案検討は、各郡市で行っているので、行う必要はないと思う。またはオンラインで行ってほしい。

3 資料の編集及び事前研修会

・資料の編集：特になし。

- ・事前研修会：必要に応じて行う。
- 4 資料の製本や配布 等
- ・メールによる資料の配信、各校での印刷は、合理的である。

IV 研究大会当日の運営や内容について（特に問題点や要望があれば）

1 運営分担や日程

- ・広い地域から集まってくるので開始時間等に配慮してほしい。（東西）
- ・コロナ禍で2つの授業公開、オンライン授業のための機器の準備等で会場校、役員 の負担が多い。

（西）

- ・生徒を学校に残して参加しなくてもよいように教科部会と同日に行ってほしい。（東）

2 研究授業

- ・部員数に対して1研究授業では画像も遠くで見えづらい。（東）
- ・授業公開だけでなく、実践事例の発表という形を検討できないか。（西）

3 研究発表

- ・行っていない。

4 研究協議

- ・グループ分けはよかったが、時間が短かった。（東）
- ・障害別のグループ討議は話し合いも活発で今後も継続してほしい。（西）

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

- ・アドバイザーの講義はとてもよかったが、時間が短く、途中で終わってしまった。研究協議かアドバイザーの講義かのどちらかにしぼった方がよい。（東）

V 各研究部会独自の意見や要望

- ・先生方が日頃困っていることについて、情報交換したり相談にのってもらったりできる機会をつくってほしい。
- ・近年、特別支援学級数が増加し、担当者も増えてきているので、研究授業数の増加を希望。
- ・東部、西部とも地区の範囲が広いので、開始時刻を遅らせることも検討してほしい。
- ・東部、西部で1年おきの開催にできないか。他の部会と同日で、残留職員数も少なくなるうえ、特別支援学級の生徒を他の先生に見てもらって出張にできるのが難しい。もしくは、教科と同日開催にしてもらい、生徒を帰してから出張に出て研修したい。

※来年度の授業について

東部…富山市 西部…高岡市

<保健部会>

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

（実践発表について）

- 実践の内容を精選して、分かりやすくまとめて発表されていた。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって子供たちの心身に影響が出ていることを、健康づくりノートを活用し、データで客観的に示して健康課題を焦点化してあり、とてもタイムリーな内容だった。
 - 生徒保健委員会にもR-PDCAサイクルを活用し、生徒の主體的な活動を促す支援が素晴らしいと思った。準備も活動時間の確保も大変だが、生徒の活動意欲が高まり生活改善への実践意欲の向上にとっても効果的だと感じた。
 - 生徒指導主事やスクールカウンセラー、司書教諭、生徒保健委員長等、様々な立場のメンバーと協働した取組だった。チーム力だと感じた。
 - 頻回来室生徒への対応について、保健室での丁寧な対応の大切さを再認識した。安全基地としての保健室の役割も必要だと感じた。
 - 健康づくりノートの集計方法を高岡市独自で工夫されていて参考になった。
- （アドバイザー事業について）
- 養護教諭に求められる実践力等、「もっと勉強しなさい」と喝を入れていただいた気がした。養護教諭も可能な限り、教室へ出向いて保健学習や健康に関する指導に取り組まなければならないと感じた。
 - 高柳先生の仕事への意識の高さ・実践力などを強く感じ、大変勉強になった。また自分が養護教諭として、組織の一員としてやるべきことの確認ができ、自らの執務を省みる機会となった。研究大会でこのような貴重な機会を設けていただけたことに感謝したい。
 - 養護教諭としての誇りと使命感にあふれた先生のお話のおかげで、翌日からの仕事のモチベーションがアップした。

（部会協議について）

- 学校の規模によっても様々な課題や悩みがあり、共有できた。
 - グループ協議の司会に、役割分担や当日の進め方等の資料が事前に配布され、参考になり助かった。
 - 会員が事前に資料に目を通し、視点に基づいてワークシートを記入して臨んだので意見や情報交換等、活発に協議が進んだ。
- （資料について）
- 事前の配布資料や案内が分かりやすかった。
 - 全ての資料が、PDFで一つにまとめられ、とても印刷しやすかった。

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

- 協議時間にゆとりがあればよい。会員同士が自由に情報交換できる時間もあると有り難い。
- △生活習慣に関する取組には、家庭の協力が不可欠となる。家庭の意識・関心を高め継続していくための有効な手段をICTの利用を含め、考えていきたい。
- カリキュラム・マネジメントの視点を生かした指導の工夫や評価の工夫（今回はあまり活用が見られなかったため）
- 保健委員会活動の時間の確保は、学校行事や部活動との調整もあり難しい。タブレットを活用するなどの工夫も必要。
- 校内の教職員、外部講師等、養護教諭がチームを構成して対応できるように、コーディネート力を高めたい。
- 非常に大切なメディア利用の指導だが、2・3年生になると、慣れが出てきてしまい、自分事として響きにくくなっていく。2・3年生に自分事として響く取組を工夫したい。
- 学校全体がICTを活用した授業づくりや組織活動となっている中、養護教諭の実践力を高めるという意味で、保健管理、健康教育、委員会活動等でのICTを活用した実践の工夫、ICTの活用方法についても研修を行っていきたい。

III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

（会場について）

- 全県下からの参加なので、片道2時間の人もいる。開始時刻や終了時刻を考慮してほしい。また、遠方から集まりやすいように、会場は、富山市の中央に位置する婦中ふれあい館や速星公民館が有り難い。

IV 研究大会当日の運営や内容について

①運営分担や日程

- スムーズな進行だった。
- （部会協議について）
- 部会協議後の全体共有の時間が足りなかった。グループの数を減らしたり、各グループ「〇分」ではなく「協議した内容から2点」にしたりしてはどうか。記録を端末で行い、その場でアップしたり、ワークシートを事前に集めてデータ化したものを基に協議したりする工夫ができないか。各グループの発表を順番に行うのではなく、始めに出た意見に付け足す形で発表し、会場の意見も繋いでいくと主体的に学ぶ機会になると思う。
- 記入したワークシートが回収されるので、手元に記録が残らなくなるのは残念。個々の研修を深める意味では、回収は不利益となるのではないか。
- 事前のワークシートに、視点とキーワードが複数あり、何について意見を求めているのかがぼやける気がした。
- 司会者が発表ではなく、記録者が発表の方が効率的だと思う。

V 保健部会独自の意見や要望

- 中学校の養護教諭全員が集まって情報交換できる貴重な機会だ。他市の様子や研修内容等を知る機会とすることもでき、とてもよい研修会だった。
- コロナ禍で、久しぶりにアドバイザー事業の講演が実現し嬉しかった。また、高柳先生がバイタリティーあふれる方だったので刺激を受けた。
- 早速、勤務校のゲンキッズ結果を観点別にコロナ前から経年比較してみた。「生活習慣」の項目が大きく低下していて漠然と感じていた危機感が明確になった。
- 運営される先生方の細やかな配慮が多く感じられとても気持ちよく参加できた。